

尾道市内遺跡

—尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要—

平成22年度

平成24年3月

尾道市教育委員会

尾道市内遺跡

—尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要—

平成22年度

平成24年3月

尾道市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成22年度に国庫補助金を受けて尾道市教育委員会が実施した「尾道市内遺跡発掘調査等事業」の概要報告書である。
- 2 市内遺跡発掘調査等事業の実施体制は以下の通りである。
事業主体 広島県尾道市 代表者 尾道市長 平谷 祐宏

事業実施体制（平成22年度）

尾道市教育長	半田 光行
尾道市教育委員会教育総務部長	佐藤 昌弘
尾道市教育委員会庶務課長	村上 宣行

文化振興課

課長	岡田 正弘
課長補佐兼文化財係長	小林 哲也
文化財係主任学芸員	梅林 信二
文化財係主任	中崎季水恵
文化財係主事兼学芸員	西井 亨（経費執行事務・調査担当）
尾道遺跡発掘調査研究所学芸員	中嶋 将史（調査担当）
尾道遺跡発掘調査研究所学芸員	高垣真利子（調査担当）
尾道遺跡発掘調査研究所指導員	田中 秀子

<発掘作業員>	岩井 晃彦 持倉 正人
<出土遺物等整理作業員>	高垣 美代

- 3 本書の執筆は、西井が担当し、尾道市教育委員会において編集した。
- 4 検出遺構の実測および写真撮影は、西井、中嶋、高垣真利子が担当した。
- 5 出土遺物の整理は、高垣美代が担当した。
- 6 出土遺物の実測・写真撮影、挿図の整図は、西井、中嶋、高垣美代、坂本実央が担当した。
- 7 尾道遺跡第195次調査では、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の協力を得た。
- 8 尾道遺跡第197次調査では、長江中町内会（香本昌義会長）、尾道学研究会（天野安治会長）の協力を得て、共同で調査を実施した。調査参加者は以下の通りである。
八幡浩二（福山市立大学講師） 林 良司 日下 廣 藤井優希 坂本実央（尾道学研究会）
香本昌義 向井信雄 向井友基 山田房子 南條久三子 豊田順子 斉木 昭 大原通男
杉原正明 鎌倉正人 川越紀善 平田勝則（長江中町内会）
- 9 尾道市内遺跡出土木製品及び金属製品の保存処理を(株)吉田生物研究所に委託した。
- 10 本書における用語「発掘調査」・「確認調査」・「試掘調査」の定義、埋蔵文化財として取扱う遺跡の時代範囲は、平成12年3月29日付け中国四国ブロック文化行政主管課長会議作成、翌日より適用の「開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準」に基づく。
- 11 本書で使用する検出遺構標示記号および土師質土器・瓦質土器の器種分類記号は、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所（現・広島県立歴史博物館草戸千軒町遺跡研究所）で行われているものに準拠する。
- 12 調査区土層断面図で記す土層の色調は、『新版標準土色帖 2002年版』によった。
- 13 挿図および図版における出土遺物番号は、同一である。
- 14 挿図中に方位を記入するものの北方位は、すべて磁北である。
- 15 本書で使用する地図は、尾道市及び公益財団法人文化財建造物保存技術協会作成によるものである。
- 16 調査によって得られた資料は、尾道市教育委員会で保管している。

目 次

I	はじめに	1
II	尾道遺跡調査概要	
1	遺跡の範囲と調査区割	2
2	既往の調査	3
3	調査概要	
(1)	第195次調査 (IT01地点)	4
(2)	第196次調査 (BJ04地点)	12
(3)	第197次調査 (KZ01地点)	13
III	試掘調査概要	14
附編	尾道市内遺跡出土遺物調査報告(5)	15

挿 図 目 次

第 1 図	第195次調査地点位置図	4
第 2 図	第195次調査地点調査区配置図	6
第 3 図	第195次調査地点調査区平面図	7
第 4 図	第195次調査地点調査区土層断面図	8
第 5 図	第195次調査地点出土遺物実測図	9
第 6 図	第195次調査地点出土遺物実測図	10
第 7 図	第195次調査地点出土遺物実測図	11
第 8 図	第196次調査地点位置図	12
第 9 図	第197次調査地点位置図	13
第10図	御調町平試掘調査地点位置図	14
附編		
第11図	挹翠園跡出土遺物実測図①	16
第12図	挹翠園跡出土遺物実測図②	18
第13図	挹翠園跡出土遺物実測図③	19
第14図	挹翠園跡出土遺物実測図④	20
第15図	挹翠園跡出土遺物実測図⑤	22
第16図	挹翠園跡出土遺物実測図⑥	23
第17図	挹翠園跡出土遺物実測図⑦	24

挿 表 目 次

表 1	第195次調査地点出土遺物観察表	26
附編		
表 2	挹翠園跡出土遺物観察表	27

図 版 目 次

- 図版 1 — a 尾道遺跡第195次調査 調査前状況
- b 尾道遺跡第195次調査 調査風景
- c 尾道遺跡第195次調査 調査完了状況
- 図版 2 — a 尾道遺跡第195次調査 遺物出土状況
- b 尾道遺跡第195次調査 礎石検出状況
- c 尾道遺跡第195次調査 トレンチ 2 土層断面
- 図版 3 — a 尾道遺跡第195次調査 調査前状況
- b 尾道遺跡第195次調査 排水管検出状況
- c 尾道遺跡第195次調査 溝状遺構検出状況
- 図版 4 — a 尾道遺跡第196次調査 調査前状況
- b 尾道遺跡第196次調査 調査完了状況
- c 尾道遺跡第197次調査 調査風景
- 図版 5 — a 尾道遺跡第197次調査 表土除去状況
- b 尾道遺跡第196次調査 表土除去状況
- c 御調町平試掘調査 調査完了状況
- 図版 6 尾道遺跡第195次調査 出土遺物
- 図版 7 挹翠園跡採集遺物
- 図版 8 挹翠園跡採集遺物
- 図版 9 挹翠園跡採集遺物

尾道市内遺跡

—尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要—

平成22年度

I はじめに

平成22年度、「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を受けて尾道市教育委員会が実施した「尾道市内遺跡発掘調査等事業」の概要を報告する。

事業の目的

本事業の主たる目的は、本市市街地中心部の東御所町から尾崎本町に至る一帯に所在する「尾道遺跡」内において行われる個人住宅建設工事などの「土木工事等」に対応して発掘調査・確認調査を実施し、遺跡を記録保存することにある。その結果得られる資料を基として、遺跡の解明を図る。

また、市内の埋蔵文化財保護を目的として、次の諸調査を必要に応じて実施する。

- 分布調査。
- 開発事業計画に伴う埋蔵文化財包蔵地の有無や概要を確認するための試掘調査・確認調査。
- 住宅建設工事など個人の「土木工事等」によって影響を受ける埋蔵文化財を記録保存するための発掘調査。

事業の内容

本年度実施した事業の内容は、次のとおりである。

尾道遺跡の確認調査及び工事立会を実施した。

浄土寺境内地内の確認調査を実施した。

御調町で埋蔵文化財包蔵地確認の試掘調査を実施した。

尾道遺跡出土木製品の保存処理を実施した。

事業経費

総事業費 2, 445 千円（国庫補助 1, 200 千円）

Ⅱ 尾道遺跡調査概要

1 遺跡の範囲と調査区割

遺跡の範囲

周知の埋蔵文化財包蔵地である「尾道遺跡」は、嘉応元（1169）年、後白河院領大田庄（現・広島県世羅郡一帯）の倉敷地に公認されて誕生した⁽¹⁾中世港湾都市「尾道」を対象とする遺跡であり、本州瀬戸内沿岸部のほぼ中央に位置する広島県尾道市の市街地中心部、東御所町から尾崎本町に至る一帯の地下約1～4 mに包蔵される。市街地中心部ほぼ全域に相当する約37.3haを遺跡の範囲として推定している。

街区表示による遺跡の範囲は、次のとおりである。

東御所町、土堂一・二丁目、十四日元町、久保一・二・三丁目、尾崎本町、東・西久保町、長江一・二丁目、東・西土堂町、防地町 一帯。

調査区割

『紙本著色尾道絵屏風』など古絵図に描かれた「尾道」の町割と現「尾道」の町割との対比によって、近世以前に形成された町割が現代に踏襲されてきている可能性が高いと推測されることから、街区表示・住居表示に準拠して調査区割を行っている⁽³⁾。

遺跡名標示記号：9 L O M

* 遺跡名標示記号は、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所（現・広島県立歴史博物館草戸千軒町遺跡研究所）で行われているものに準拠する。

第一目			第二目		調査回数
A: 東御所町	F: 久保二丁目	K: 長江一丁目	A～Z	第一目各町内における街区を基とした区割。共有地・寺社域など街区を越えて広がるものは別途区割する。	01～ 各区域内における調査回数
B: 土堂一丁目	G: 久保三丁目	L: 長江二丁目			
C: 土堂二丁目	H: 尾崎本町	M: 東土堂町			
D: 十四日元町	I: 東久保町	N: 西土堂町			
E: 久保一丁目	J: 西久保町				
土堂から久保までの本通りで複数区にまたがる場合			a	本通り	
QA: 防地町					
Z	調査の結果、埋蔵文化財包蔵地ではないと確定される地点				

註

(1) 「嘉応元年11月23日後白河院庁下文」、『宝簡集』巻第一、高野山金剛峯寺蔵。

(2) 安永3（1774）年、浄土寺蔵、尾道市重要文化財。

(3) 調査区割図は、次の報告書に掲載している。

『尾道遺跡一市街地発掘調査一1984』、『尾道遺跡一市街地発掘調査概要一1990』。

2 既往の調査

尾道遺跡は、故土屋隆氏らの尽力によって発見され、昭和50年、広島相互銀行尾道支店改築工事の事前調査として初めて学術的発掘調査が実施された⁽¹⁾。室町時代以降の遺構面および遺物包含層が幾重にも重なって包蔵されていることが確認され、また、元朝景德鎮枢府窯製白磁碗完形品の出土もあって、この第1次調査は、昭和52年度からの国庫補助金・県費補助金を受けた継続的な発掘調査実施の契機となるとともに、『高野山文書』『浄土寺文書』などの文献史料上に記された中世「尾道」の繁栄ぶりが考古資料によって裏付けられていく端緒となった。

尾道市教育委員会の埋蔵文化財調査体制が整った昭和56年度からは、建設関係業者などに対して本遺跡の推定範囲ならびに遺跡内において「土木工事等」を行う際には事前に届出が必要であることをより周知徹底し、市教育委員会の手で個人専用住宅・店舗兼用住宅建設工事に伴う事前調査を実施しており、公共土木工事や民間事業所・法人の土木工事に伴い事業者より委託を受けて随時実施したものを合わせると、調査次数は190次を超えたが、商業都市特有の奥行きに比べて間口が極端に狭い敷地における調査は、必然的に調査区配置と調査面積に制約を伴い、一調査地点あたりの調査面積が10㎡に満たないことがほとんどであるため、約37.3haと推定されてきた遺跡面積に対して約1%の面積しか調査できていないのが現状である。

こうした状況の中で集積した190次余の調査による資料は、遺跡解明の重要な手がかりとなっており、例えば、第34次調査地点（1985年度、C D 0 3）などで海岸に関わるものと推定される遺構が検出され、第84次調査地点（1990年度、E D 0 1）などで海成層・埋め立て層が認められたことにより、おぼろげながら中世「尾道」の海岸線をつかめるようになった⁽³⁾。また、第100次調査地点（1992年度、B G 0 2）、第182・184次調査地点（2002・2003年度）など「本通り」（近世山陽道「西国街道」）に関連する調査地点、第132次調査地点（1995年度、I F 0 9）など「防地口」（浄土寺山・西国寺山間の谷口）域における調査地点で検出された遺構や土師質土器を中心とする出土遺物の年代などからは、中世、防地川河口域にまです町が成立し、漸次西側に町が拡大していったことが明らかになりつつある。

遺構が存在する範囲およびその内部の全容解明のためには、さらなる調査資料の集積が必要であることから、住宅建設など土木工事対応の事前調査によって得られる‘点’としての調査成果をつなぎ合わせることで遺跡の解明を進めている。

註

- (1) 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『尾道中世遺跡発掘調査概報－尾道市土堂一丁目所在－』、尾道中世遺跡発掘調査団、1977年。
- (2) 以下、既往の各調査地点の成果については、当教育委員会が各年度ごとに発行している『尾道遺跡－市街地発掘調査概要－』などを参照されたい。
- (3) 『尾道遺跡－市街地発掘調査概要－1996』挿図「中世尾道の海岸線推定図」。

3 調査概要

第195次調査（確認調査、IT01地点）

所在地：尾道市東久保町20-28

調査原因：浄土寺建造物保存修理工事に伴う埋蔵文化財確認調査

調査期間：平成23年1月18日～1月21日

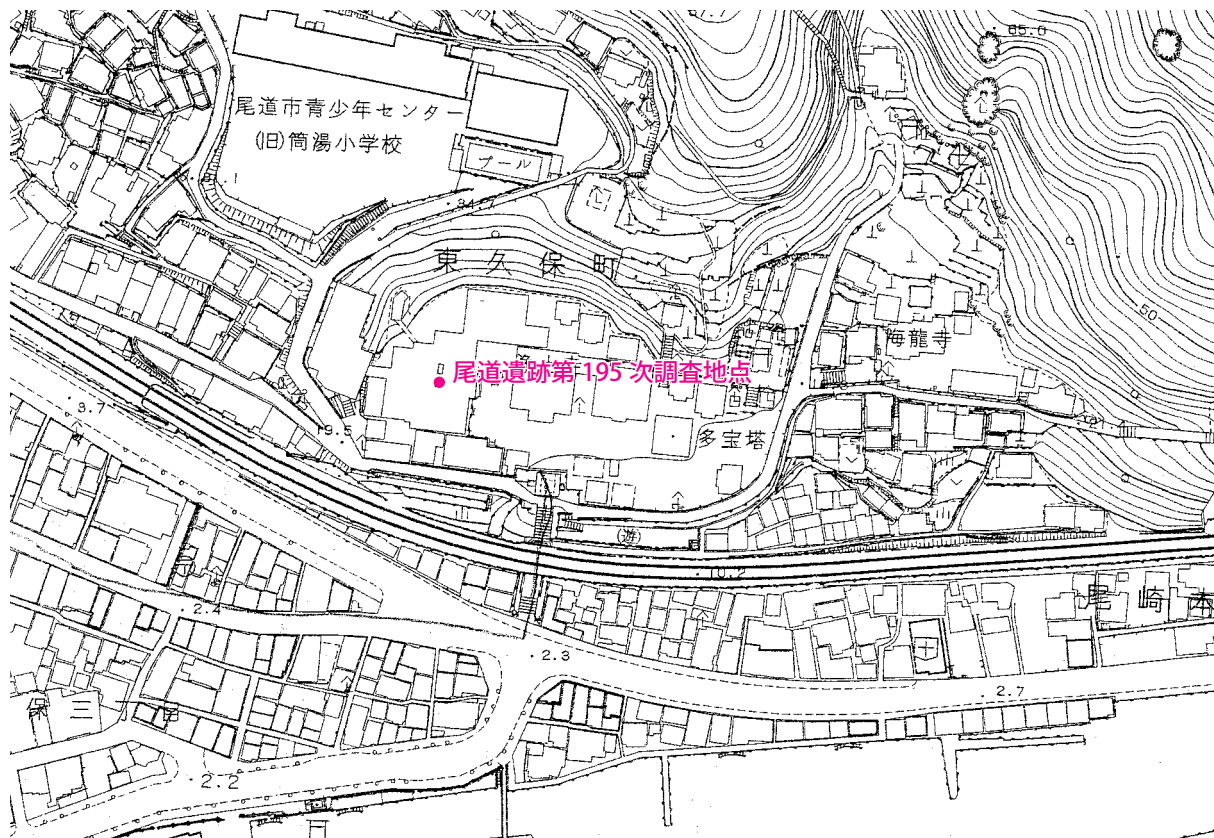
調査面積：18.0㎡（トレンチ1 15.0㎡、トレンチ2 1.0㎡、トレンチ3 2.0㎡）

調査深度：0.6m

調査概要：当該地は、尾道遺跡内の浄土寺庫裏客殿内に位置する。現在、解体修理中の庫裏客殿の修理工事に伴い、中庭部分・客殿部分の建物痕跡を確認する必要があるため、確認調査を実施した。

庫裏客殿中庭部分に長さ10.0m、幅1.5mのトレンチ1、長さ1.0m、幅1.0mのトレンチ2、長さ2.0m、幅1.0mのトレンチ3、客殿北東部に長さ0.5m、幅0.3mのトレンチを3箇所を設定した。

トレンチ1では、江戸時代以降に繰り返し整地された痕跡が認められ、遺物も出土している。また、現地表面から約50cm下で、庫裏客殿以前の建物の礎石を検出した。



第1図 第195次調査地点位置図（1：2,500）

A 検出遺構

(1) 庫裏客殿中庭

トレンチ1では、深さ0.4mまでは、中庭造成の際の埋め土がみられ、0.4mより下から江戸時代の遺物が多数出土している。また、トレンチ南西部では、近世～近代の瓦だまりが検出された。

また、中庭部分に存在した客間の痕跡は埋蔵文化財からは確認できなかった。雨落ちや礎石、整地層などは中庭造成時に消失している可能性が高い。礎石と考えられる石が庭石として置かれているが、すでに動かされていると推定される。

トレンチ中央西側に部分的に礎石が検出されているが、その下から江戸時代の皿や碗が完品に近い形で出土している。これは礎石設置時に埋められた可能性が高い。

同じくトレンチ中央からは、地表面から約0.5mの深さで礎石が検出された。この礎石は他の礎石と標高が異なり、最も深い場所で検出されており、庫裏客殿以前の建造物に伴うものであると考えられる。この近辺には食堂が建っていたと記録があり、そのような建造物の礎石の可能性もある。

トレンチ2では、一部に元々の土が残存していたが、雨落ち等の痕跡は認められなかった。

中庭は、庭造成時の整地層が多くみられ、当初の整地層はほとんど残っていなかった。また、一部に瓦や土器を廃棄したと考えられる遺構が検出されている。

(2) 庫裏客殿北東部

庫裏客殿北東部は、浄土寺絵図によると、自然の水路が流れていたことがうかがえるが、今回の調査では、排水管が水路とほぼ同じ箇所に設置されており、一部の水路（溝状遺構）を検出したのみである。

B 出土遺物

遺物は、トレンチに散在する状況で出土しているが、特に、トレンチ1の南端と中央部から一括して出土している。これは、人為的に廃棄されたことが想定できるが、土坑などの遺構に伴うものではない。トレンチ1の南端の遺物は8層から、中央部の遺物は15層からまともに出土している。ここでは、層位別に記載し、その特徴を明らかにしたい。

1層出土遺物（第5図1～4）

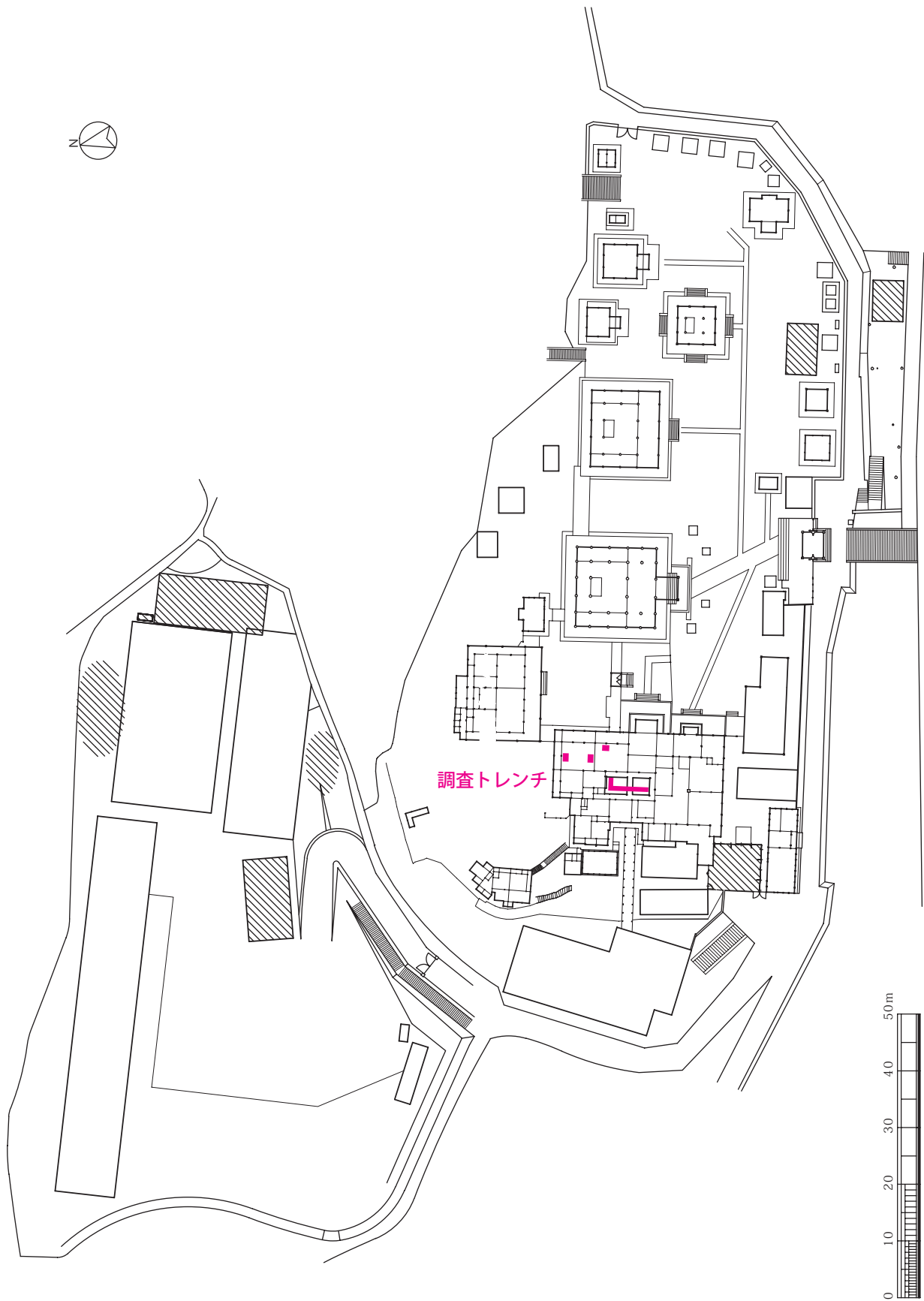
伊万里焼碗（1～3）と白磁壺（4）が出土している。白磁壺の底には、「文花」の刻印がある。

8層出土遺物（第5・6図5～14、16、17、20、21、23）

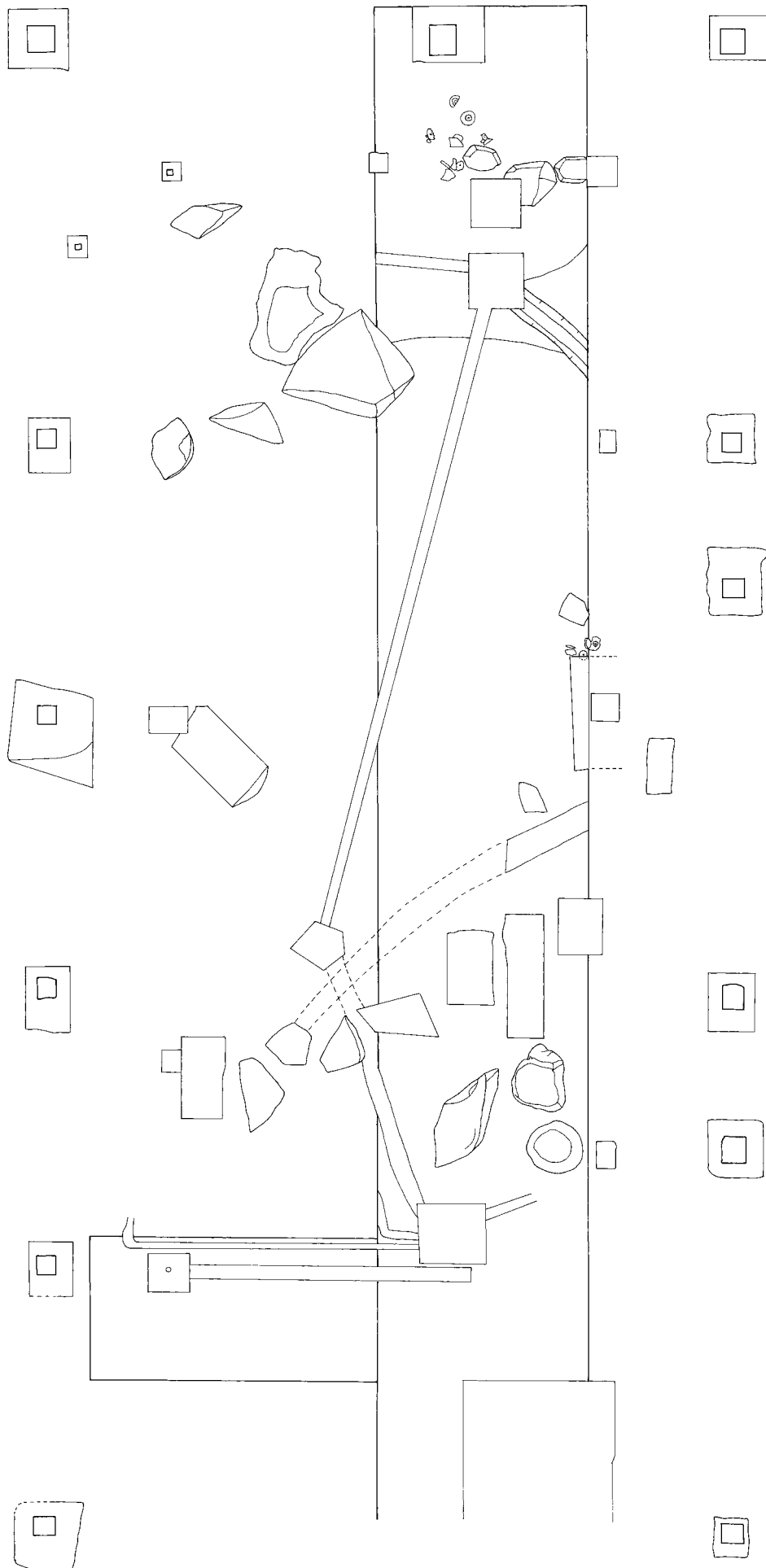
陶磁器蓋（6）、染付合子蓋（7）、陶磁器皿、六角坏、染付碗、備前焼播鉢が出土している。7は伊万里焼の染付合子蓋で、草木や山などが描かれている。

15層出土遺物（第6図15、18、19、22）

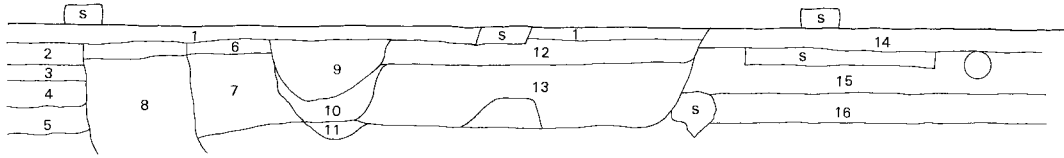
陶磁器碗と蓋が出土している。18は陶磁器碗で底に「浄」の字が墨書されている。



第 2 図 第195次調査地点調査区配置図

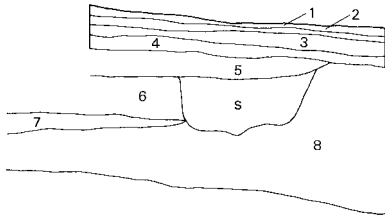


第 3 図 第195次調査地点調査区平面図 (1 : 40)



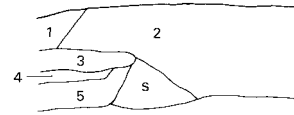
土層説明

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 褐灰色砂質土 | 9. 黒色砂質土 (炭化物を含む) |
| 2. 灰黄褐色砂質土 (礫を含む) | 10. 黒褐色砂質土 (炭化物を含む) |
| 3. 褐灰色砂質土 | 11. 褐灰色砂質土 |
| 4. 灰黄褐色砂質土 | 12. 灰黄褐色砂質土 |
| 5. 黒色砂質土 (瓦を多量に含む) | 13. にぶい黄褐色砂質土 (瓦だまりあり) |
| 6. 橙色砂質土 | 14. にぶい黄褐色砂質土 |
| 7. 黒褐色砂質土 (小礫を含む) | 15. 暗褐色砂質土 (炭化物を含む、遺物2層) |
| 8. 橙色砂質土 (小礫を含む) | 16. 灰黄褐色砂質土 |



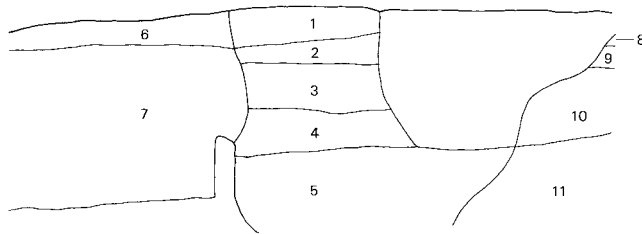
土層説明

1. 浅黄橙色砂質土 (しまりが強い、たたき)
2. 黒色砂質土 (しまりが強い、たたき)
3. 褐色砂質土 (しまりが強い、たたき)
4. 黒褐色砂質土 (しまりが強い、たたき)
5. にぶい黄褐色砂質土 (しまりが強い)
6. 暗褐色砂質土 (遺物3層)
7. にぶい黄褐色砂質土層 (白色層あり)
8. 黒褐色砂質土層 (瓦、礫を含む)



土層説明

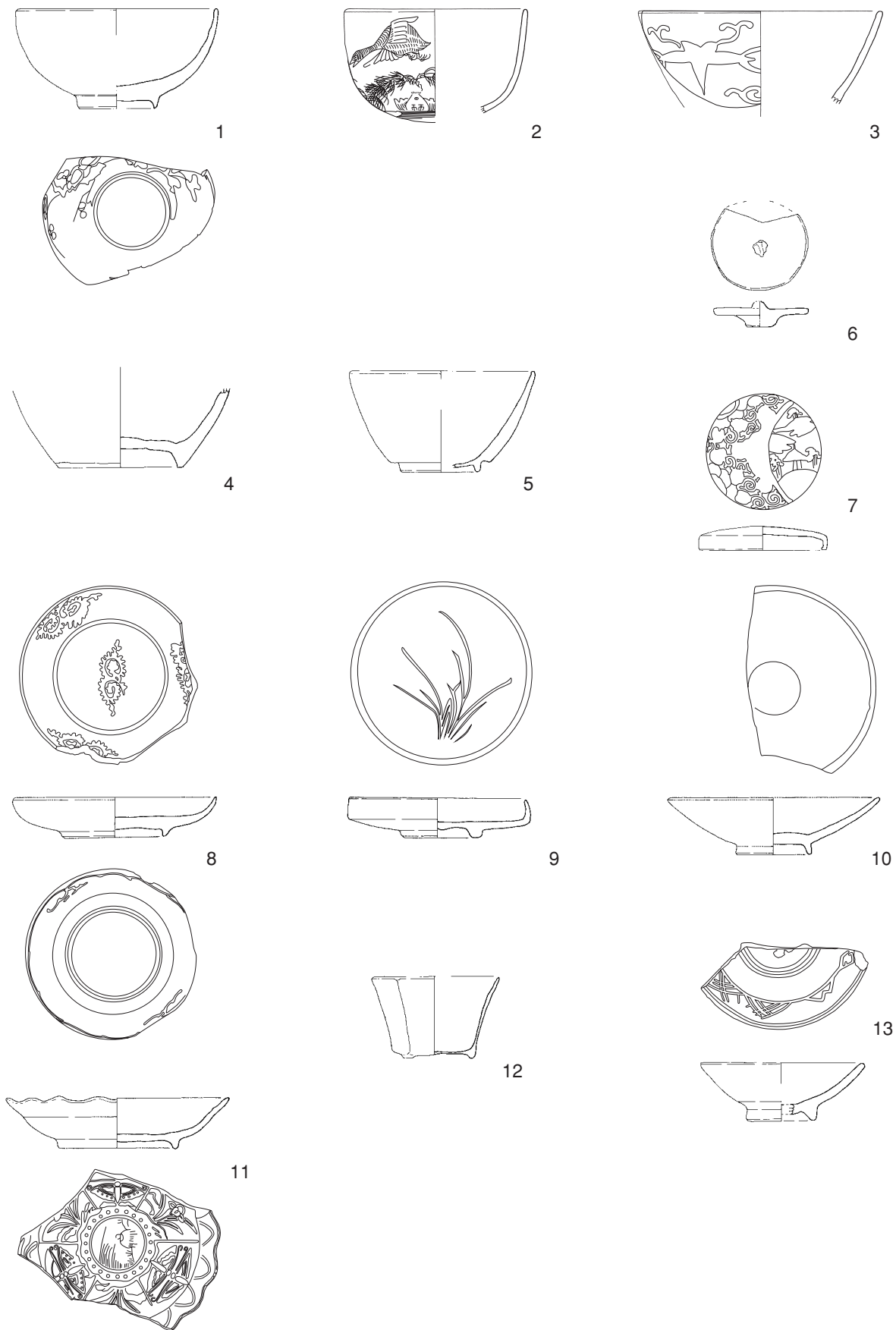
1. にぶい黄褐色砂質土 (φ2mm ほどの小礫を含む)
2. 暗褐色砂質土 (礫を含む)
3. 褐色砂質土 (雲母を多量に含む、しまりが強い)
4. 褐色砂質土 (しまりが強い)
5. 暗褐色砂質土 (層の中間に黄褐色砂質土層を含む)



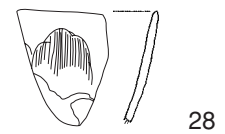
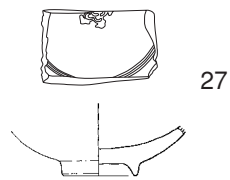
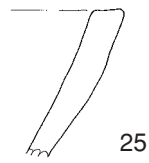
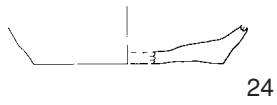
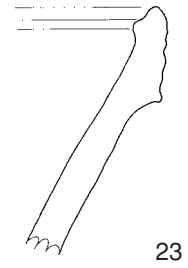
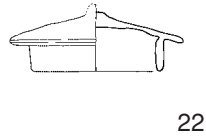
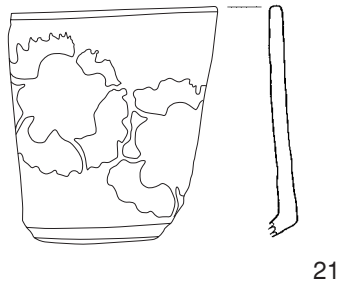
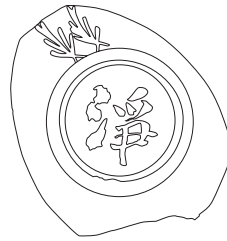
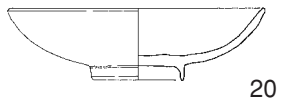
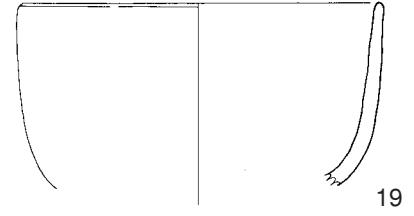
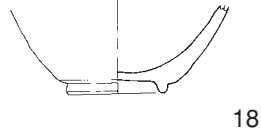
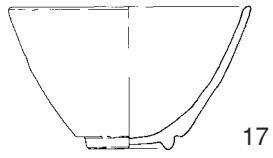
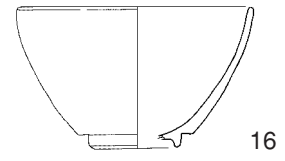
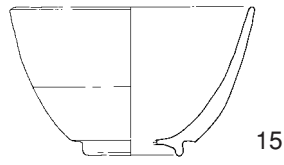
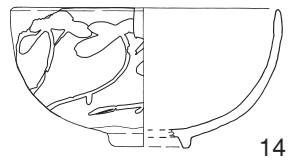
土層説明

1. にぶい黄褐色砂質土 (しまりが強い)
2. 褐灰色砂質土 (しまりが強い、白色粒子)
3. にぶい黄橙色砂質土 (しまりが強い)
4. 褐灰色砂質土
5. にぶい黄褐色砂質土 (瓦を多量に含む)
6. 褐色砂質土 (しまりが強い)
7. 黒褐色砂質土 (土壁を多量に含む)
8. 黒褐色砂質土 (しまりが強い、炭化物を多量に含む)
9. にぶい黄褐色砂質土 (しまりが強い)

第4図 第195次調査地点調査区土層断面図 (1:40)



第5図 第195次調査地点出土遺物実測図(1:3)



第6図 第195次調査地点出土遺物実測図(1:3)

16層出土遺物（第6図24～29）

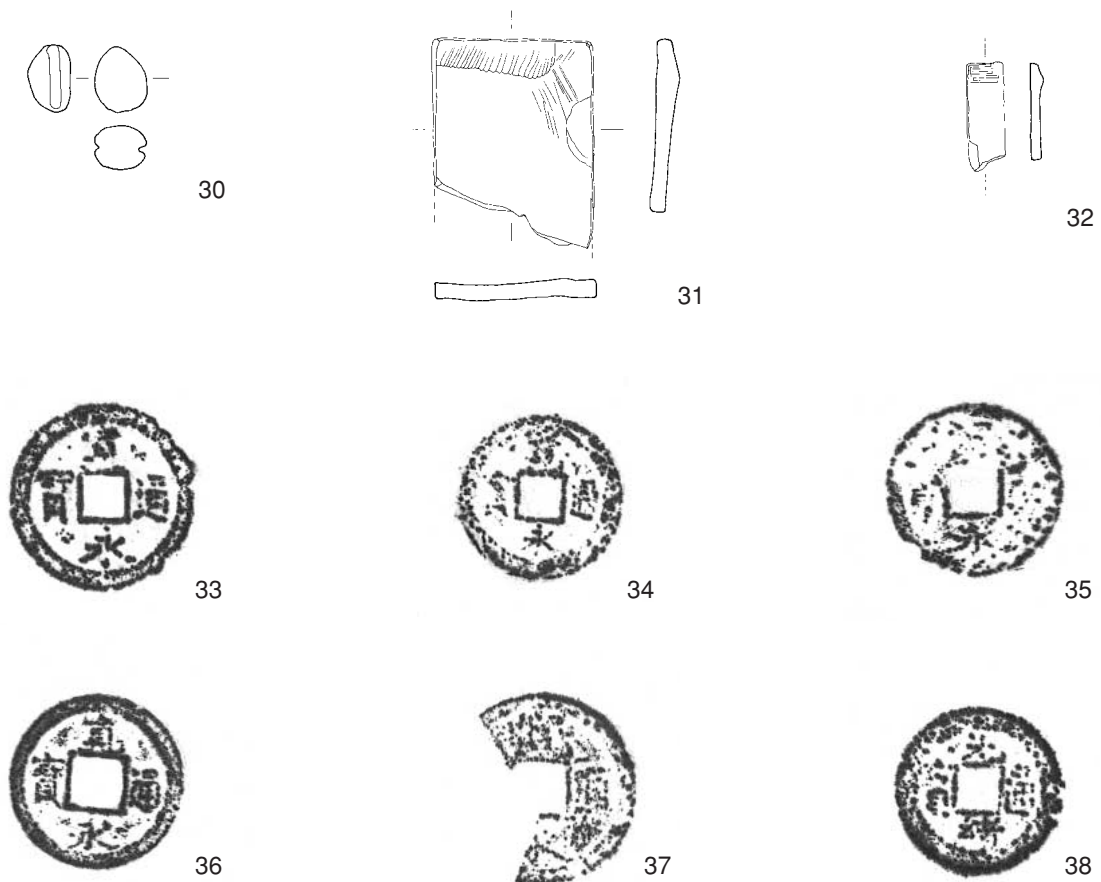
土師質土器皿AⅠと瓦質土器播鉢、染付碗、染付皿が出土している。年代は、土師質土器皿と瓦質土器播鉢の形状から、15世紀後半から16世紀初頭に比定される。

他に土錘と砥石、銅銭が出土している。

出土遺物は、中世から近世に属するが、16層出土遺物は15～16世紀、15層出土遺物が18世紀、8層出土遺物が18～19世紀の年代が与えられる。

このことから、最下層から検出された礎石は、中世の建造物のものである可能性があり、現在の庫裏客殿以前の建造物であると考えられる。

また、まとめて出土した土器の年代から、庫裏客殿建築時もしくはその後に廃棄されたものであると考えられる。



第7図 第195次調査地点出土遺物実測図（1：3、銅銭のみ1：1）

第196次調査（確認調査、BJ04地点）

所在地：尾道市土堂一丁目792-9ほか

調査原因：共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財確認調査

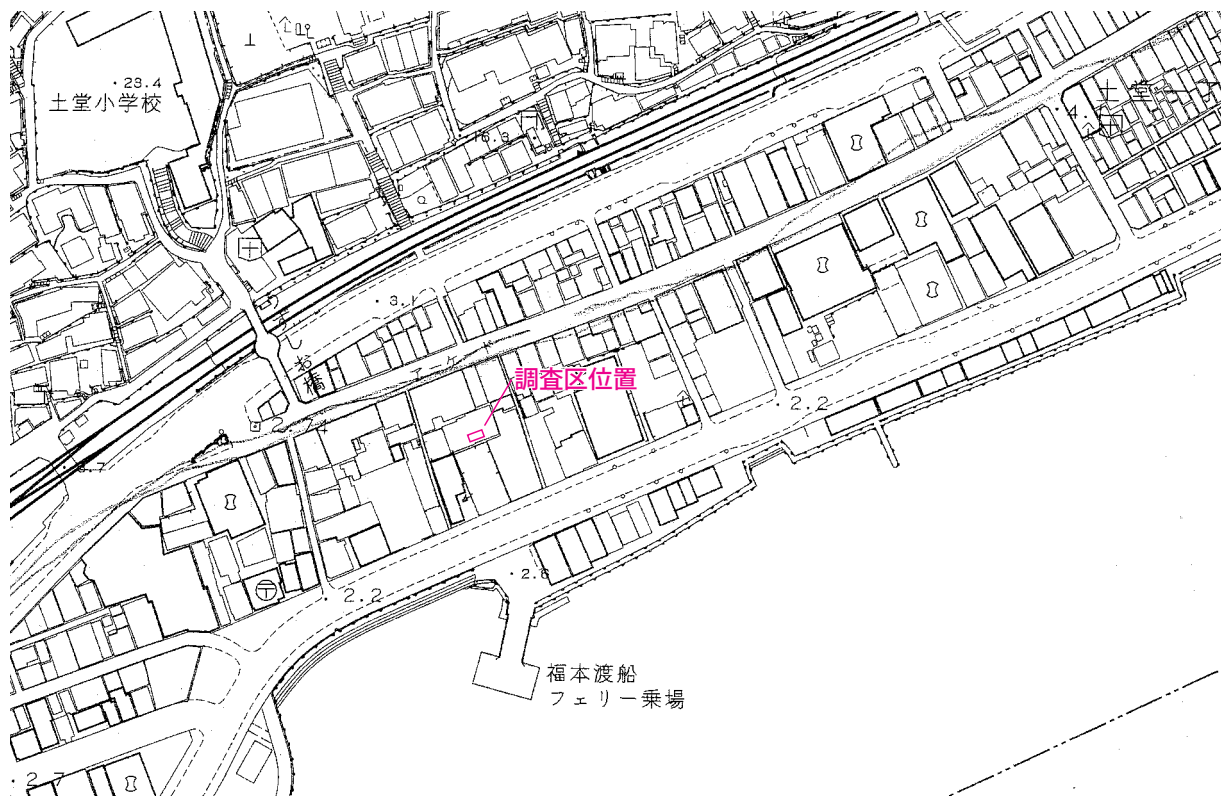
調査期間：平成23年1月25日～1月26日

調査面積：7.5㎡

調査深度：1.8m

調査概要：当該地は、千光寺山南側の本通り沿いに位置する。過去の調査によれば、当該地周辺は、中世～近世の海岸があったと考えられる場所であり、海岸遺構や建物遺構があることが予測されたため、埋蔵文化財の存在を確認する調査を実施した。

対象地に長さ5.0m、幅1.5mのトレンチを設定した。約1.8m程の表土の下から、青灰色粗砂層を検出したが、著しい湧水が認められたため、調査を終了した。明確な遺構や遺物は検出されていない。



第8図 第196次調査地点位置図（1：2,500）

第197次調査（確認調査、KZ01地点）

所在地：尾道市長江一丁目

調査原因：庭園範囲確認調査

調査期間：平成23年3月9日～3月11日

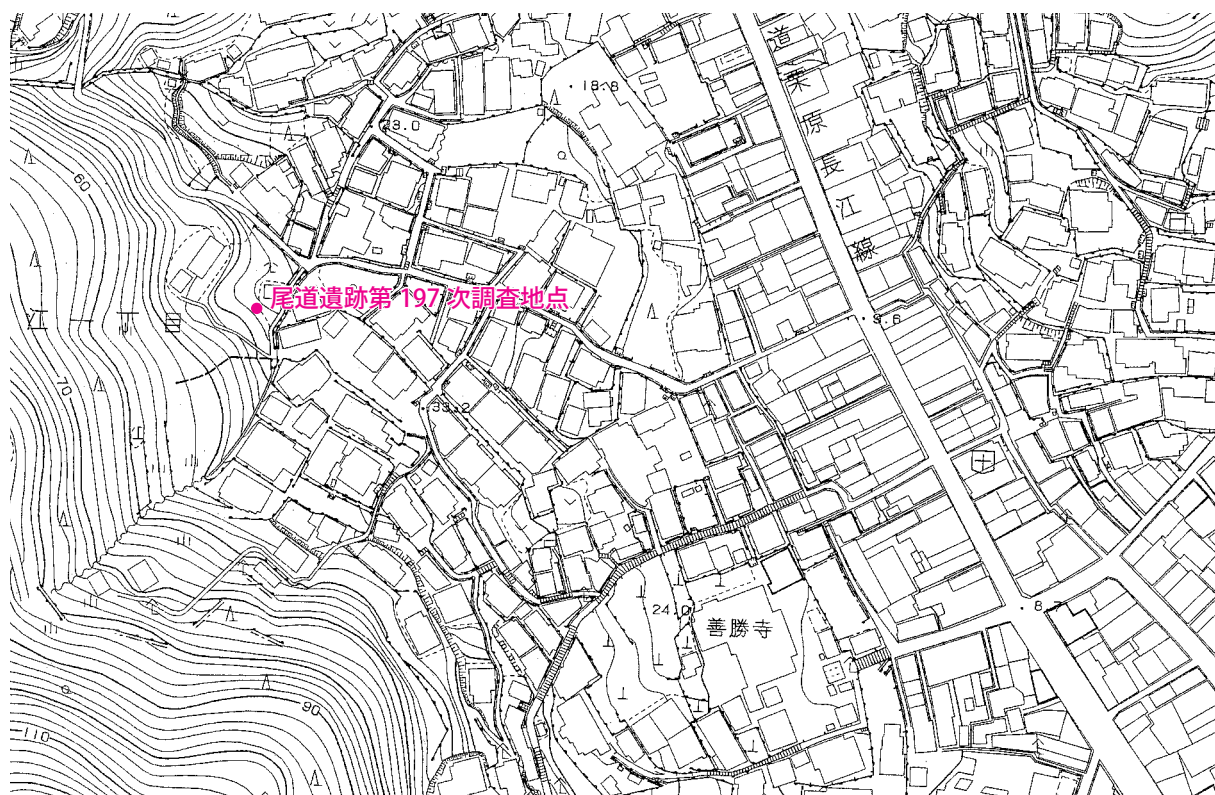
調査面積：5.0㎡

調査深度：1.2m

調査概要：当該地は、千光寺山東麓の斜面地に位置する。昭和51年4月の倉庫建設に伴う造成工事の際に、当該地からは、近世の素焼きの土器が多数出土しており、その採集資料は尾道市教育委員会が保管している（附編参照）。文献資料等により周辺に窯跡が存在する可能性があったため、埋蔵文化財の存在を確認する調査を実施した。

確認調査では、尾道学研究会、長江中町内会の協力を得て、共同で実施した。

今回の調査は、調査対象地の草刈りと礫を撤去し、遺跡の有無を確認するための地表面観察と地形測量を実施した。



第9図 第197次調査地点位置図（1：2,500）

Ⅲ 試掘調査概要

1 御調町消防団倉庫建設工事計画地内試掘調査（第10図、図版5）

調査場所：尾道市御調町平

調査原因：消防団倉庫建設工事計画地内の遺跡有無確認

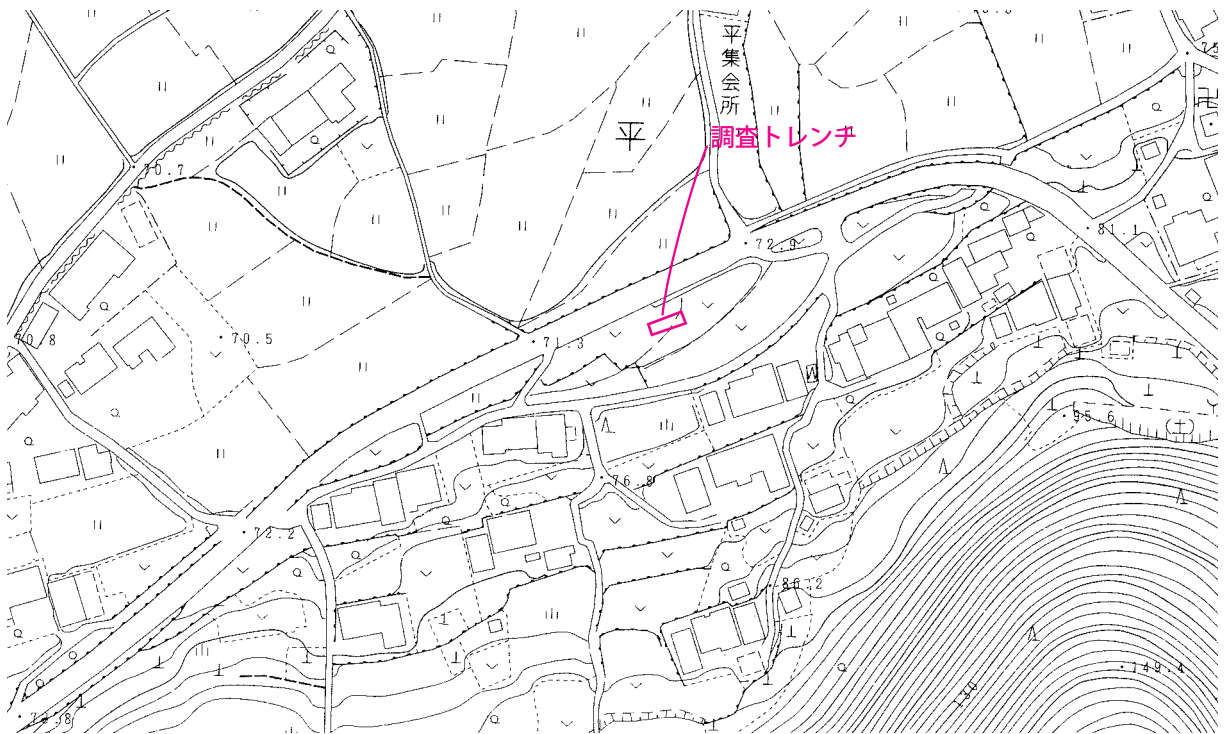
調査期間：平成22年11月18・19日

調査面積：7.5㎡（長さ5.0m・幅1.5mのトレンチ1本）

調査深度：0.3m

調査概要：当事業計画地内について現地踏査などを実施した結果、当該地の位置・立地地形および周辺遺跡の分布状況などから、当該地に遺跡が存在する可能性が考えられたため、当該地内の所要の箇所にトレンチを設定して、試掘調査を実施した。

厚さ約30cmの耕作土の下は、黄褐色の基盤層であり、明瞭な遺構・遺物は検出されなかった。



第10図 御調町平試掘調査地点位置図（1：2,500）

附編 尾道市内遺跡出土遺物調査報告（5）

—尾道遺跡K Z 0 1 地点（挹翠園跡）昭和51年採集遺物の分析—

1 挹翠園跡の位置と周辺環境

挹翠園跡は、尾道遺跡内の千光寺山東麓の斜面地に位置する。当該地周辺は、斜面地に和風住宅や洋風住宅が密集する地域であり、そういった住宅地内に庭園にあったと考えられる遺構が散在している。

位置としても、尾道遺跡の北端、つまり港町尾道の北側にあり、眼下には、長江の街並みと出雲街道が通り、南には、尾道水道や向島が広がっている。

挹翠園跡は、江戸時代中頃に御調郡の割庄屋熊谷幾右衛門によって造られた茶園である（朝井 1977）。文化・文政期には、頼山陽などの文人墨客が訪れ、頼山陽の「遊挹翠園記」や平賀晋民の「挹翠園記」にその様子が書かれている。この茶園には、梅林や竹林、松林、巨岩などがあり、茶園から望む景色は格別であったと述べられている。

現在の挹翠園跡は、宅地化により、その多くは失われているが、宅地内に巨岩や竹林、築庭、井戸などの遺構を確認できる。そのため、茶園の範囲や茶室等の建築物の場所も不明である。

昭和51年4月、長江一丁目の向井氏宅地内で倉庫を建てるため、造成工事を行っていたところ、大量の土器が発見された。それらは、尾道市教育委員会が保管してきたが、このたび、挹翠園跡を調査することとなったため、改めて採集資料を調査し、報告することとした。

2 採集遺物の概要

昭和51年に採集され、尾道市教育委員会が保管している資料は全部で147点である。今回は、凶化可能な142点を報告する。

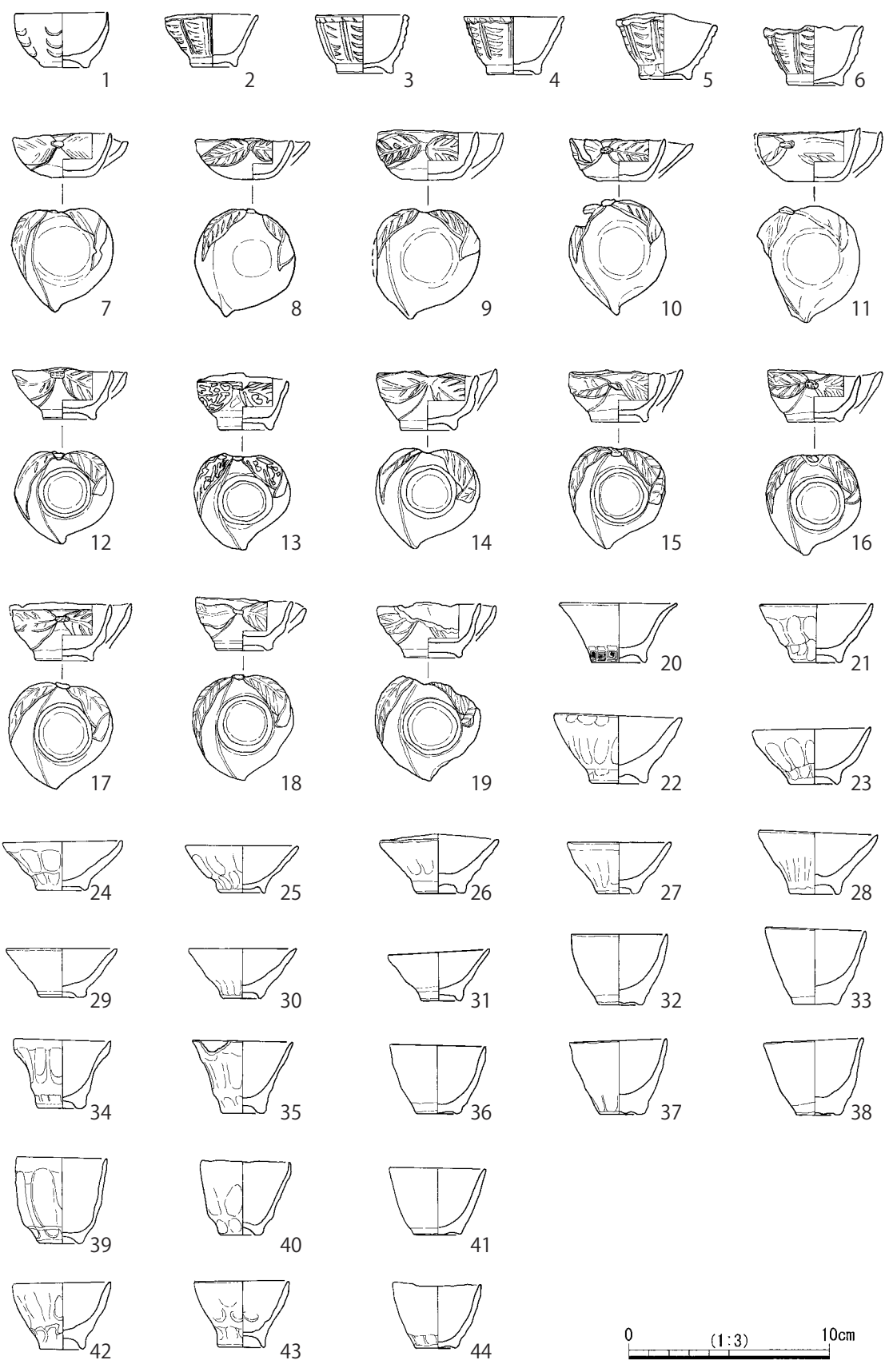
採集された土器は、ほとんどが煎茶用茶道具である。採集時の記録が残っていないため、出土状況は不明であるが、土地所有者の向井氏によれば、ほぼ一括して出土したようである。ここでは、一括出土資料として記述する。

土師質土器坏A（第11図1～6 図版7）

坏で高台がつき、表面に爪形の文様が連続しているものをA類とする。6点出土している。口径4.5cm、高さ3.0cmと非常に小型で直線的に外に開く形状である。この坏の大きさと文様に見合う型が出土している（第16図114）。

土師質土器坏B（第11図7～19 図版7）

坏で平面形が桃の形状をしており、表面に葉の文様が2箇所つく。高台がつくB1類とつかないB2類が認められる。口径5.1cm、高さ2.7～3.0cmと小型で、若干内湾しながら、外に開く。



第11图 挹翠園跡出土遺物実測图①

土師質土器坏C（第11図20～44 図版7）

外側に外湾しながら開くか、直線的に開き、文様がない、もしくは指押さえ状のくぼみがつけられる坏をC類とした。薄口で高台がつくもの、厚手で高台がつかないもの、指押さえ状の文様が施され、高台がつくものなど、様々な形状がみられる。口径4.8～6.0cm、高さ3.0～3.6cmで坏類では比較的大きいものが多い。この坏の大きさと文様に見合う型が出土している(第16図110、111)。

土師質土器碗A（第12図45～53 図版7）

碗類で、平面形が楕円形に近く、表面に胡桃殻状の文様がつけられたものをA類とした。9点出土している。ほぼ同様の形状で、薄口、高台はつかず、表面には曲線の文様がつき、全体として胡桃を模した形状となっている。口径6.0cm、高さ3.0cmとほぼ同じ大きさである。この碗の大きさと文様に見合う型が出土している（第16図115、116）。

土師質土器碗B（第12図54～60 図版7）

平面形は円形だが、注ぎ口があり、帆立貝のような形状の碗をB類とした。口縁は波打っており、外に直線的に開く。外面には、指押さえのような凹凸がつけられる。内面はすり鉢のような刷毛目が等間隔でつけられ、みこみには×状に刷毛目が施される。口径7.5cm、高さ3.1cmの大きさのものが多いが、それより大型で同一形状の土器も出土している。

土師質土器碗C（第13図61～73 図版7）

平面形が円形及び六角形だが、注ぎ口がつく碗をC類とした。かなり薄口で、内湾する形状である。外面に縦方向の線が連続してみられるものをC1類とし、外面に文様はないが、円形の平面形に明確な注ぎ口がつくものをC2類、六角形の平面形に注ぎ口がつき、外面には等間隔の凹凸があるものをC3類とした。

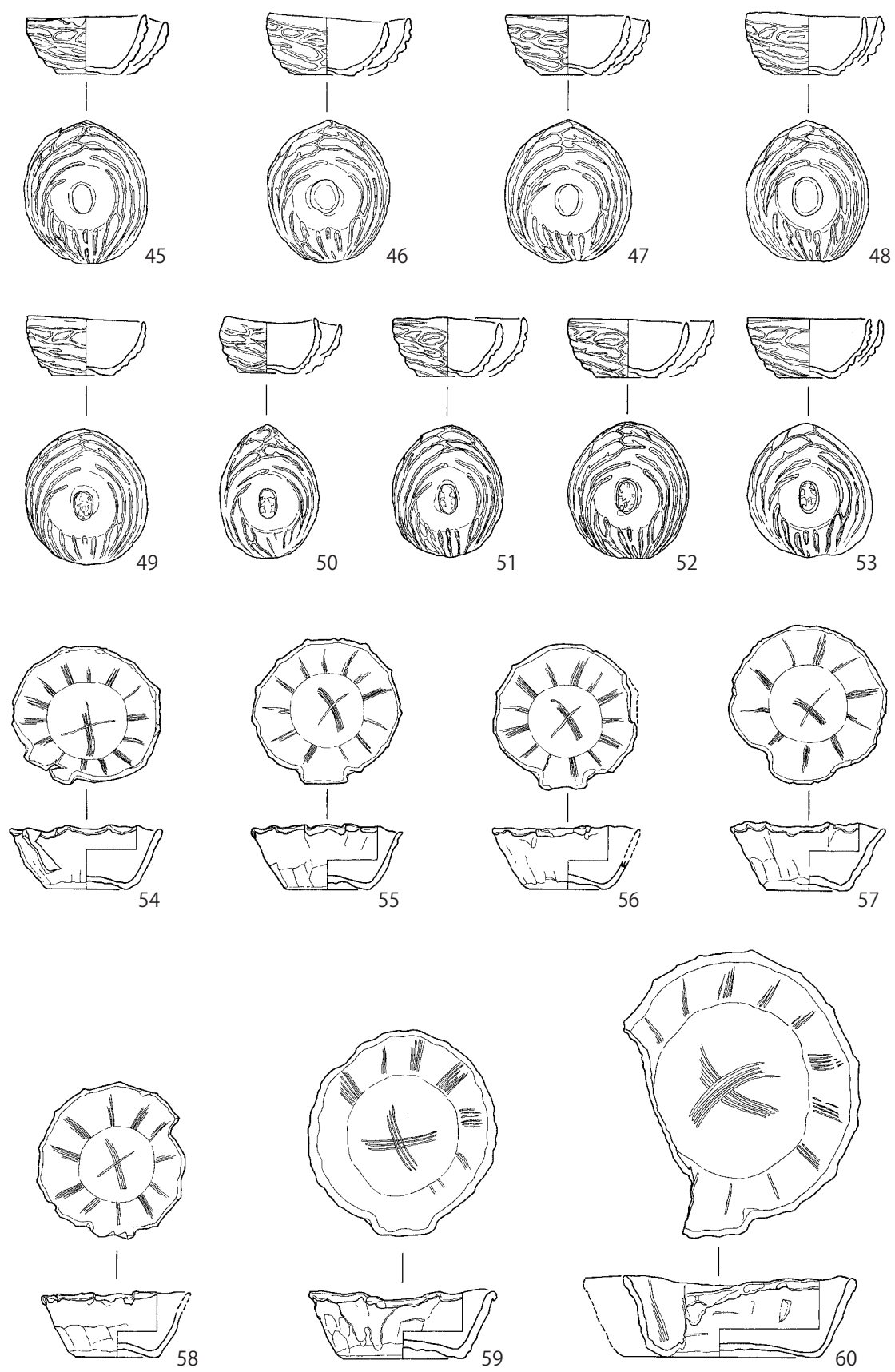
C1類（第12図61～64）には、注ぎ口以外の口縁を覆う蓋がつく。蓋部分は口縁に接着しており、外面には同心円状の文様が施されている。この蓋部分と坏部分にはそれぞれ型があり、(第16図117、124、125) それを接着した形となっている。

C2類（第12図65、66）には、明確な注ぎ口がつく。湯冷ましに近い形状である。

C3類（第12図67～68、70～73）は、型があるが、型の平面形は円形である。これは、型取りした後に口縁部をつまんで内側に曲げ、六角形に近い形状となるよう仕上げられている。注ぎ口は後でつけられている。

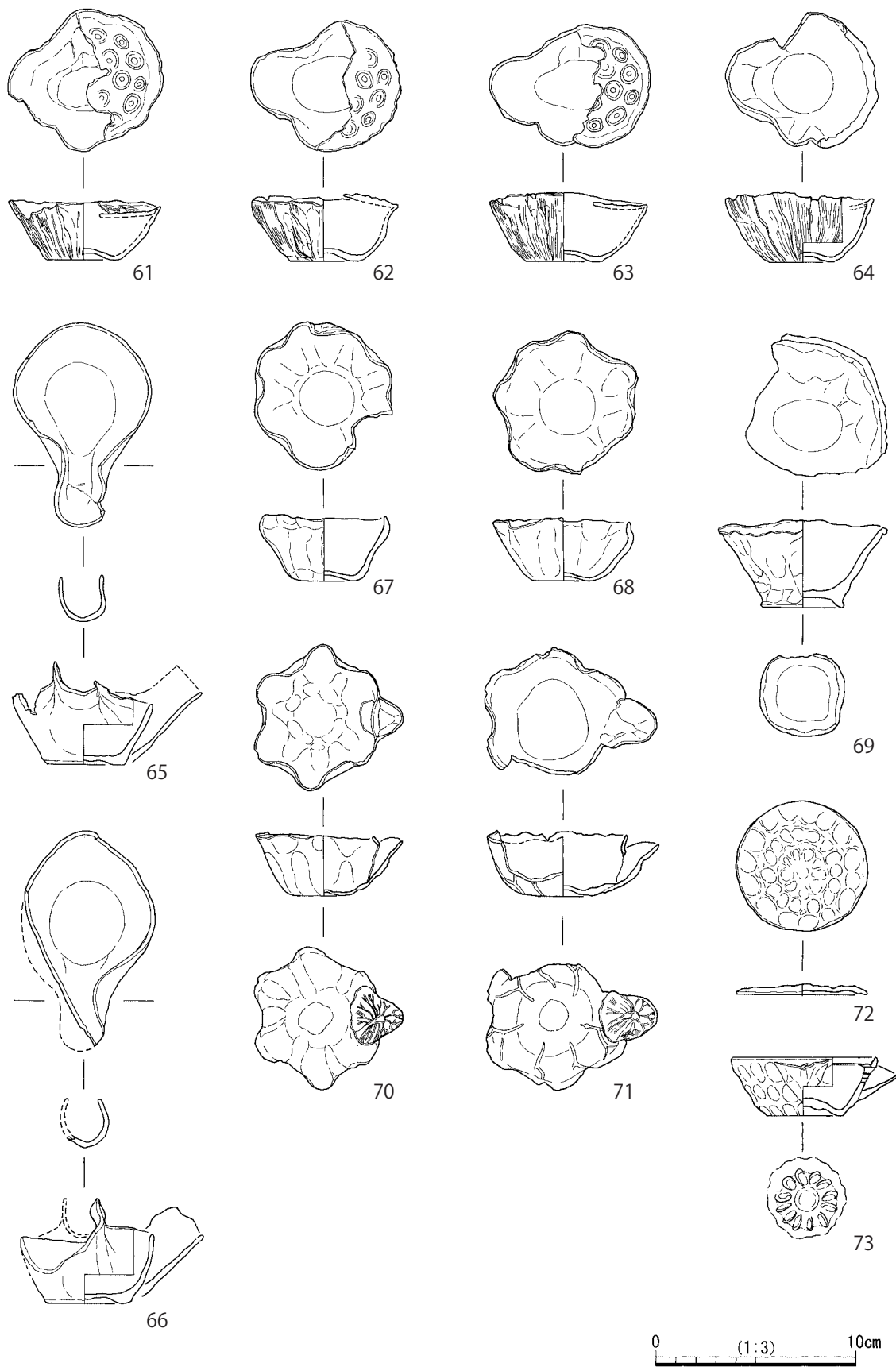
土師質土器碗D（第14図74～88 図版8）

平面形は円形もしくは楕円形で、口縁部は強く内湾し、内外面に鱗状の文様があるものをD類とした。薄口で、底部は盛り上がり、平面形は楕円形であるが、型取りした際には円形のを楕円形になるように内側に曲げている。底部内外面にはプロペラ状の文様が施される。これらは、型（第16図112、113）に文様がつけられていることによるもので、型は3～4種類ほどあるようである。

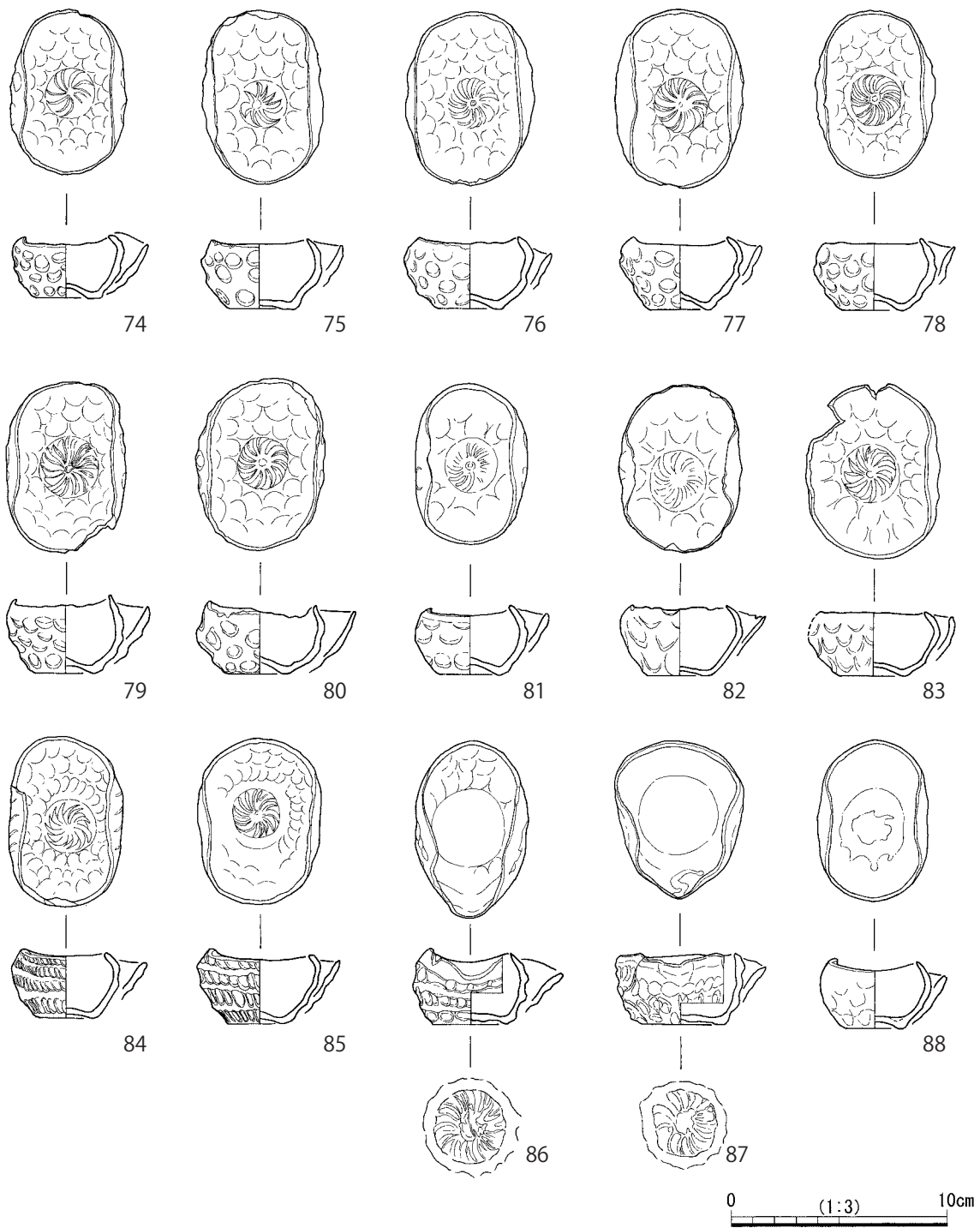


0 (1:3) 10cm

第12图 挹翠園跡出土遺物実測图②



第13图 挹翠園跡出土遺物実測図③



第14图 挹翠園跡出土遺物実測图④

鉢（第15図89 図版8）

平面形は四角形で、脚が4つつく。

土師質土器皿（第15図90～98 図版8）

口径4.8～8.0cm、高さ1.0～1.5cmにおさまる、小型の皿である。

瓶（第15図99～108 図版8）

底部は円形で底径8.0cm程、口縁部は円形もしくは四角形で口径3.6cm程であり、高さは20cm前後と考えられる。底部から直線的あるいは若干外反して口縁部は細くすぼまる。外面に文様はあまりみられないが、粘土の継ぎ目のような痕跡が認められる。また、底部は少し内側にへこみ、後でつけられたようである。

型（第16図109～126 図版9）

型はそれに対応する土器とともに出土している。型には、土器の外面の文様が施され、底部の凹凸もすでに型でつけられている。型には、出土している土器に符合しないものもあり、他にも多数の土器が存在していることをうかがわせる。125はU字状を呈し、外面には「立□」の文字が線刻されている。

窯道具（第17図127～132 図版9）

窯道具として、焼成の際に使用する、ハマ（126～130）や棒状の粘土を丸めてハマのようにしたもの（132）が出土している。

ファイゴの羽口（第17図142 図版9）

土製のファイゴの羽口である。

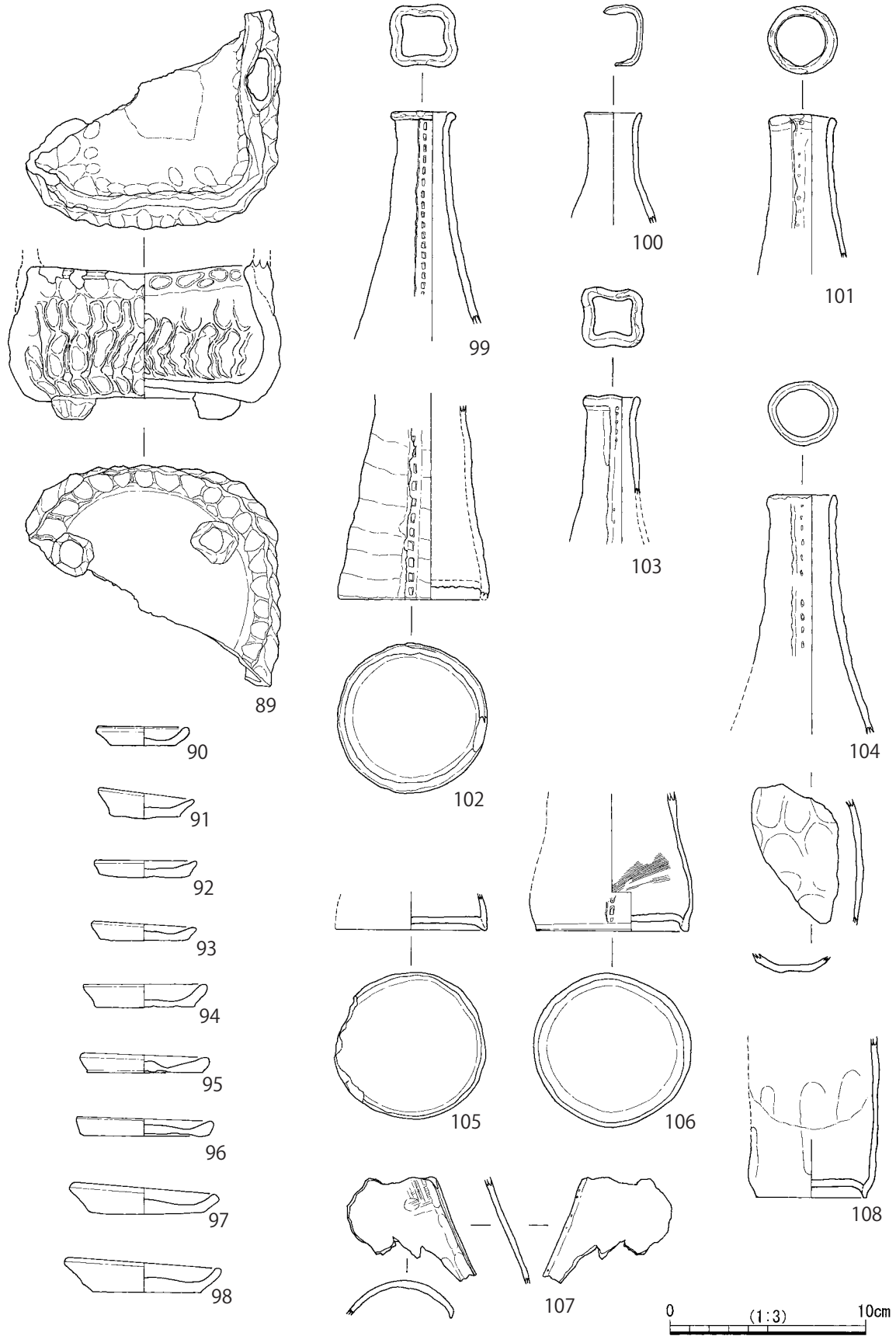
用途不明土製品（第17図133～140）

粘土を丸めた形状の土製品が出土している。これは、碗につく取っ手の可能性がある。土師質土器碗Cの66には、この土製品が接合していたような痕跡が残っており、取っ手として機能していたことがうかがえる。

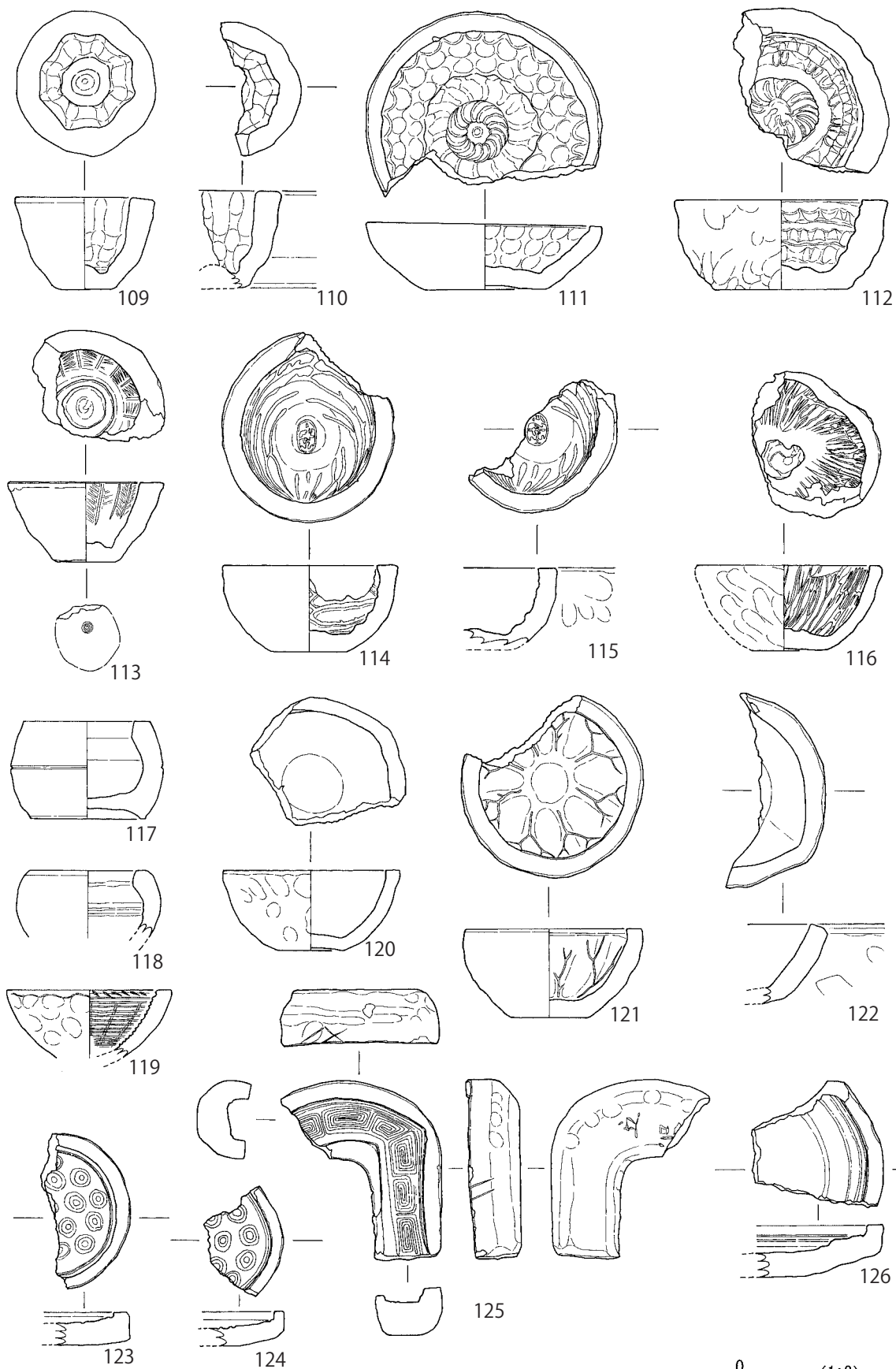
3 採集遺物の分析

掘翠園跡から採集された遺物は全部で147点である。そのほとんどは、土師質の皿と碗、坏であり、その形状から煎茶器と考えられる。採集された土器であるため、出土層位が不明であり、製作年代を考察するには、類似品との比較しかない。

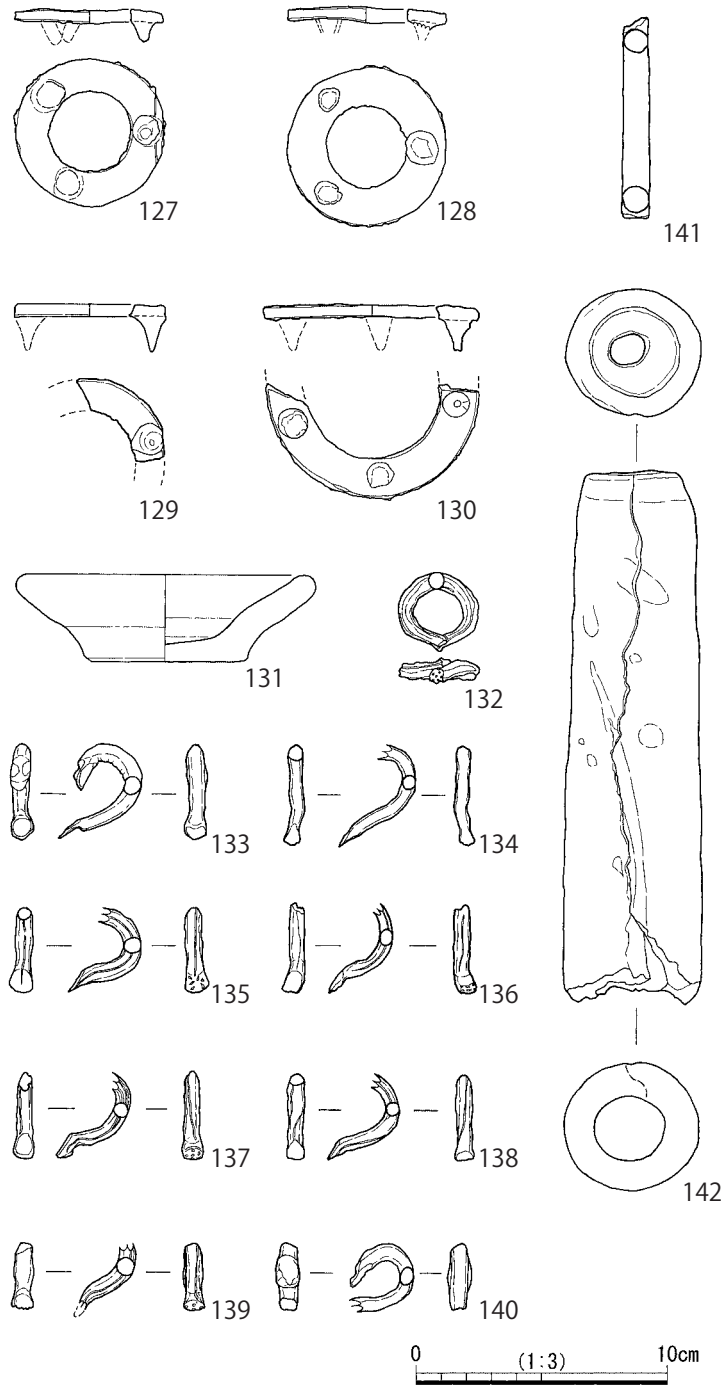
しかし、こうした煎茶器は、それぞれ形状や文様が異なるため、年代特定が非常に難しい。また、採集遺物には、窯に関連した遺物（第17図127～132、141、142）も含まれているため、



第15图 挹翠園跡出土遺物実測图⑤



第16图 挹翠園跡出土遺物実測図⑥



第17图 挹翠園跡出土遺物実測図⑦

採集地周辺の窯で焼かれた可能性がある。この窯については、現在のところ、挹翠園跡からは検出されていないが、採集遺物に一括性があることから、窯で焼かれた土器がまとまって廃棄された場所であると考えられる。

土器のうち、坏と碗は同じ規格であるものが多く、形状と文様が同じ型が採集されていることから、型取りされ、若干曲げたりして加工した後に窯で焼かれたと考えられる。

土師質土器坏A、Cは、坏として使用されたと考えられるが、坏Bは煎茶器の湯冷ましの形状をしている。

土師質土器碗A～Dはいずれも注ぎ口をもち、特に碗BとCは、明瞭な注ぎ口が認められる。これらは、湯冷ましとしての用途が考えられ、また、碗Aや碗Dにみられる型による文様は特徴的で、製作者の美意識がうかがえる資料である。

この他に、瓶や大鉢、皿などが器種としてあるが、意識的に統一された規格と文様がみられる。これらのことから、採集された土器群は、同一の製作者により、同一の窯で焼かれたもの、または、その過程であるものと判断できる。

土器の多くは、素焼きで、彩色や施釉はされていないが、第11図12、13、26、31、第12図49、59、60、第14図87、88、第15図89、99、104、106、108は施釉されており、完成品である。つまり、成形し、素焼きした土器と施釉された完成品とが混在しており、この近隣で土器が製作されていたことと、実際に窯で焼かれていたことが推定できる。

挹翠園跡からは、そうした土器製作の場所や窯の存在を窺うことができないが、現在実施している庭園範囲確認調査において、そうした遺構や窯の存在が確認できるかもしれない。今後も継続的に調査を進め、新たな土器の出土や遺構検出により、幻の庭園である挹翠園を解明することとしたい。

引用・参考文献

青木 茂 1977 『新修尾道市史』第6巻 尾道市役所

朝井 証善 1977 「尾道と茶の湯」『尾道市文化財春秋』13 尾道市文化財協会

岡田俊太郎編 1914 『藝藩通志』巻四

岡田俊太郎編 1915 『藝藩通志』巻五

得能正通編 1990 「尾道志稿」『備後叢書』巻五

八幡浩二 2008 『備後加島園跡—近世町人文化遺跡の基礎的研究』 尾道大学地域総合センター

表1 第195次調査地点出土遺物観察表

番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	口径	器高	備考
1	5	6	陶磁器	碗	10.2	5.4	
2	5	6	陶磁器	碗	9.6		
3	5	6	伊万里焼	碗	12.9		
4	5		白磁	壺			
5	5		陶磁器	碗	9.6	5.4	
6	5	6	陶磁器	蓋	5.1	1.2	
7	5	6	伊万里焼	合子蓋	6.6	1.2	
8	5	6	伊万里焼	皿	10.5	2.1	
9	5	6	唐津焼	皿	9.6	2.1	
10	5		陶磁器	皿	11.1	3	
11	5		染付	皿	11.7	2.7	
12	5	6	白磁	六角坏	6.6	4.2	
13	5	6	染付	皿	8.4	3	
14	6		伊万里焼	碗	10.8	5.7	
15	6	6	伊万里焼	碗	9.6	6	
16	6	6	伊万里焼	碗	9.3	5.7	
17	6	6	伊万里焼	碗	9.6	5.7	
18	6	6	伊万里焼	碗			底部に「浄」の墨書
19	6		陶磁器	碗	14.4		
20	6	6	染付	皿	10.2		
21	6	6	伊万里焼	碗			
22	6	6	陶磁器	蓋	6.9	2.7	
23	6		備前焼	掃鉢			
24	6	6	土師質土器	皿			
25	6	6	瓦質土器	掃鉢			
26	6	6	染付	皿	10.5		
27	6	6	染付	碗			
28	6	6	染付	碗			
29	7	6	染付	皿			
30	7	6	土製品	土錘			
31	7	6	石製品	砥石			
32	7	6	石製品	砥石			
33	7		金属製品	銅錢			寛永通宝
34	7		金属製品	銅錢			寛永通宝
35	7		金属製品	銅錢			寛永通宝
36	7		金属製品	銅錢			寛永通宝
37	7		金属製品	銅錢			寛永通宝
38	7		金属製品	銅錢			光緒通宝
39		6	石製品	碁石			
40		6	石製品	碁石			

表2 挾翠園跡出土遺物観察表

番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調
1	11	7	土師質土器	坏A	4.6cm	3.8cm	砂粒・雲母を含む	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
2	11	7	施釉陶器	坏A	4.8cm	2.8cm	砂粒・長石	良好	胎:7.5YR7/4にぶい橙色、釉:5YR5/6明赤褐色
3	11	7	土師質土器	坏A	4.3cm	3.0cm	砂粒・雲母を少量含む	良好	2.5YR7/3浅黄色
4	11	7	土師質土器	坏A	5.2cm	2.9cm	砂粒・雲母	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
5	11	7	土師質土器	坏A	5.0cm	3.3cm	微砂粒・雲母を含む	やや甘い	10YR7/4にぶい黄褐色
6	11	7	土師質土器	坏A	5.0cm	3.0cm	砂粒・雲母・石英	やや甘い	10YR6/3にぶい黄褐色
7	11	7	施釉陶器	坏B	4.9cm	2.3cm	砂粒・長石	良好	胎:10YR7/3にぶい黄褐色 釉:10YR6/4にぶい黄褐色
8	11	7	土師質土器	坏B	5.1cm	2.0cm	砂粒・雲母を含む	やや甘い	10YR6/4にぶい黄褐色
9	11	7	土師質土器	坏B	5.2cm	2.4cm	微砂粒多	良好(やや硬質)	10YR4/1褐灰色
10	11	7	土師質土器	坏B	5.4cm	2.1cm	砂粒・雲母	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
11	11	7	土師質土器	坏B	5.6cm	2.7cm	砂粒・雲母	やや甘い	7.5YR6/4にぶい橙
12	11	7	施釉陶器	坏B	4.9cm	2.6cm	砂粒	良好	5YR4/4にぶい赤褐色、釉は白色
13	11	7	陶器	坏B	4.7cm	2.9cm	砂粒・雲母	良好	2.5YR4/8赤褐色
14	11	7	土師質土器	坏B	5.1cm	3.1cm	微砂粒・雲母	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
15	11	7	土師質土器	坏B	5.0cm	2.6cm	砂粒・雲母	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
16	11	7	土師質土器	坏B	5.0cm	2.6cm	砂粒・雲母	良好	10YR6/3にぶい黄褐色
17	11	7	土師質土器	坏B	5.1cm	2.9cm	砂粒・雲母・黒色粒	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
18	11	7	土師質土器	坏B	5.2cm	2.7cm	砂粒・雲母	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
19	11	7	土師質土器	坏B	5.2cm	2.8cm	砂粒・雲母	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
20	11	7	土師質土器	坏C	5.8cm	3.0cm	微砂粒を多く含む	良好	2.5Y5/4黄褐色
21	11	7	土師質土器	坏C	5.9cm	3.0cm	砂粒・雲母	良好	7.5YR7/4にぶい橙色
22	11	7	土師質土器	坏C	6.5cm	3.5cm	砂粒・雲母を含む	やや甘い	2.5Y6/4にぶい黄色
23	11	7	土師質土器	坏C	6.0cm	2.8cm	砂粒・雲母・黒色粒	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
24	11	7	土師質土器	坏C	6.0cm	2.6cm	砂粒・雲母・黒色粒	やや甘い	7.5YR6/2灰褐色
25	11	7	土師質土器	坏C	5.8cm	2.4cm	砂粒少・雲母・黒色粒多	やや甘い	10YR8/4浅黄褐色
26	11	7	施釉陶器	坏C	6.2cm	3.0cm	砂粒・長石	良好	胎:5YR4/6赤褐色、釉:5YR3/3暗赤褐色
27	11	7	土師質土器	坏C	5.6cm	2.6cm	砂粒・雲母・黒色粒多	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
28	11	7	土師質土器	坏C	6.0cm	3.2cm	砂粒・雲母を含む	やや甘い	10YR6/4にぶい黄褐色
29	11	7	土師質土器	坏C	5.5cm	2.5cm	砂粒・長石・雲母を少量含む	良好	10YR5/4にぶい黄褐色
30	11	7	土師質土器	坏C	5.6cm	2.5cm	砂粒・雲母・黒色粒	やや甘い	2.5Y6/4にぶい黄色
31	11	7	施釉陶器	坏C	5.5cm	2.6cm	砂粒	良好	胎:2.5YR4/3にぶい赤褐色 釉:2.5YR2/1赤黒色
32	11	7	土師質土器	坏C	5.0cm	3.6cm	砂粒・雲母・長石	やや甘い	10YR8/3浅黄褐色
33	11	7	土師質土器	坏C	5.1cm	3.9cm	砂粒・雲母・黒色粒	良好	2.5Y7/3浅黄色
34	11	7	土師質土器	坏C	4.9cm	3.5cm	砂粒・長石を多く含む	良好	10YR5/3にぶい黄褐色
35	11	7	土師質土器	坏C	5.3cm	3.7cm	砂粒・雲母	やや甘い	10YR7/4にぶい黄褐色
36	11	7	土師質土器	坏C	5.0cm	3.5cm	砂粒・雲母	やや甘い	2.5Y7/3浅黄色
37	11	7	土師質土器	坏C	5.0cm	3.8cm	砂粒・雲母	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
38	11	7	土師質土器	坏C	5.1cm	3.9cm	砂粒・雲母	やや甘い	2.5Y7/3浅黄色
39	11	7	土師質土器	坏C	4.7cm	4.4cm	砂粒・雲母	不良	10YR6/1褐灰色
40	11	7	土師質土器	坏C	4.3cm	3.7cm	砂粒・長石を多量に含む	良好	10YR6/3にぶい黄褐色
41	11	7	土師質土器	坏C	5.2cm	3.6cm	砂粒・雲母少	良好	2.5Y7/3浅黄色
42	11	7	土師質土器	坏C	5.1cm	3.4cm	砂粒・雲母・黒色粒	やや甘い	10YR7/4にぶい黄褐色
43	11	7	土師質土器	坏C	5.0cm	3.4cm	砂粒・雲母	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
44	11	7	土師質土器	坏C	4.6cm	3.3cm	砂粒多・雲母少・長石	やや甘い	10YR7/1灰白色
45	12	7	土師質土器	碗A	7.2cm	3.0cm	砂粒を含む	やや甘い	7.5YR8/3浅黄褐色
46	12	7	土師質土器	碗A	7.0cm	3.1cm	砂粒・黒色粒	やや甘い	2.5Y8/2灰白色
47	12	7	土師質土器	碗A	7.0cm	3.0cm	砂粒・雲母・黒色粒	良好	2.5Y8/1灰白色
48	12	7	土師質土器	碗A	7.0cm	3.1cm	砂粒を含む	良好	5YR4/6赤褐色
49	12	7	施釉陶器	碗A	6.8cm	3.0cm	砂粒	良好	胎:2.5YR5/8明赤褐色、釉:白色(灰釉)
50	12	7	土師質土器	碗A	6.4cm	2.9cm	砂粒を含む	良好	10YR4/4褐色
51	12	7	土師質土器	碗A	6.5cm	3.0cm	砂粒・石英・雲母	やや甘い	2.5Y8/3淡黄色
52	12	7	土師質土器	碗A	6.7cm	3.0cm	砂粒・雲母・黒色粒	やや甘い	2.5Y7/3浅黄色
53	12	7	土師質土器	碗A	6.7cm	3.0cm	φ2mmの砂粒を少量含む	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
54	12	7	土師質土器	碗B	7.2cm	3.2cm	微砂粒を含む	良好	10YR7/6明黄褐色
55	12	7	土師質土器	碗B	7.8cm	3.3cm	砂粒・雲母を含む	やや甘い	10YR6/4にぶい黄褐色
56	12	7	土師質土器	碗B	7.0cm	3.2cm	砂粒・雲母を含む	やや甘い	10YR7/4にぶい黄褐色
57	12	7	土師質土器	碗B	8.0cm	3.4cm	砂粒・黒色粒	やや甘い	2.5Y7/4浅黄色
58	12	7	土師質土器	碗B	7.6cm	3.3cm	砂粒を含む	やや甘い	10YR7/4にぶい黄褐色
59	12	7	施釉陶器	碗B	10.4cm	3.6cm	砂粒・石英	良好	胎:2.5YR4/8赤褐色~2.5YR3/4暗赤褐色 釉:5YR2/3極暗赤褐色 10YR8/4浅黄褐色
60	12	7	施釉陶器	碗B	14.7cm	4.1cm	砂粒・石英	良好	胎:10YR6/3にぶい黄褐色 釉:7.5YR4/3褐色 2.5Y7/6明黄褐色
61	13	8	土師質土器	碗C	6.8cm	3.0cm	砂粒を少量含む	やや甘い	10YR8/4浅黄色
62	13	8	土師質土器	碗C	6.3cm	3.3cm	砂粒を含む	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
63	13	8	土師質土器	碗C	6.0cm	3.5cm	砂粒を少量含む	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
64	13	8	土師質土器	碗C	7.6cm	3.4cm	砂粒・石英	やや甘い	2.5Y8/3淡黄色
65	13	8	土師質土器	碗C	10.2cm	5.2cm	砂粒・雲母・長石・黒色粒含む	良好	7.5YR7/4にぶい黄褐色
66	13	8	土師質土器	碗C	7.0cm	3.3cm	砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
67	13	8	土師質土器	碗C	7.3cm	3.2cm	砂粒・雲母を少量含む	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
68	13	8	陶器	碗C	(8.4)cm		砂粒・長石	良好	10R4/3赤褐色
69	13	8	土師質土器	碗C	(11.0cm)	5.4cm	砂粒・雲母	良好	7.5YR7/4にぶい黄褐色
70	13	8	土師質土器	碗C	7.2cm	3.1cm	砂粒・長石	良好	7.5YR6/2灰褐色
71	13	8	土師質土器	碗C	8.2cm	3.3cm	砂粒・雲母を含む	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
72	13	8	土師質土器	碗C蓋	6.6cm	0.4cm	砂粒・長石を多く含む	良好	10YR6/2灰黄褐色
73	13	8	土師質土器	碗C	7.5cm	3.0cm	砂粒・長石を多く含む	良好	10YR6/2灰黄褐色

番号	挿図番号	写真番号	種別	器種	口径	器高	胎土	焼成	色調
74	14	8	土師質土器	碗D	7.7cm	3.0cm	砂粒を含む	良好	10YR8/3浅黄橙色
75	14	8	土師質土器	碗D	8.0cm	3.3cm	砂粒・黒色粒を含む	良好	2.5Y7/4浅黄色
76	14	8	土師質土器	碗D	7.2cm	3.0cm	砂粒・長石を多く含む	良好	10YR6/2灰黄褐色
77	14	8	土師質土器	碗D	8.1cm	3.4cm	砂粒・雲母を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙色
78	14	8	土師質土器	碗D	7.8cm	3.3cm	砂粒を含む	良好	2.5YR7/3浅黄色
79	14	8	土師質土器	碗D	7.8cm	3.7cm	砂粒・黒色粒	良好	10YR7/4にぶい黄橙色
80	14	8	土師質土器	碗D	8.0cm	3.5cm	砂粒・雲母・黒色粒	良好	10YR5/3にぶい黄褐色
81	14	8	土師質土器	碗D	7.4cm	3.3cm	砂粒・黒色粒を含む	良好	10YR5/3にぶい黄褐色
82	14	8	土師質土器	碗D	7.9cm	3.3cm	微砂粒を含む	やや甘い	10YR6/4にぶい黄褐色
83	14	8	土師質土器	碗D	8.0cm	3.0cm	砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
84	14	8	土師質土器	碗D	7.9cm	3.2cm	砂粒・雲母を含む	良好	10YR8/4浅黄橙色
85	14	8	土師質土器	碗D	7.7cm	3.5cm	砂粒・石英	やや甘い	10YR8/3浅黄褐色
86	14	8	土師質土器	碗D	8.4cm	3.6cm	砂粒・黒色粒	やや甘い	10YR7/3にぶい黄褐色
87	14	8	施釉陶器	碗D	7.3cm	3.5cm	砂粒	良好	5YR5/6明赤褐色～5YR3/3暗赤褐色 胎:7.5YR8/3浅黄褐色
88	14	8	施釉陶器	碗D	7.4cm	3.1cm	砂粒・長石・黒色粒を含む	良好(軟質)	胎:10YR6/6明黄褐色 釉:10YR4/4褐色
89	15	8	施釉陶器	鉢(把手付)	(11.5)cm	残存(8.3)cm	φ2～3mm黒色粒・雲母	良好	胎:2.5YR4/6赤褐色 釉:10YR6/1褐色
90	15	8	土師質土器	皿	4.5cm	1.0cm	精緻	良好	7.5YR7/6褐色
91	15	8	土師質土器	皿	4.8cm	1.6cm	微砂粒を少量含む	良好	5YR6/6褐色
92	15	8	土師質土器	皿	5.1cm	0.8cm	微砂粒を含む	不良	5YR5/8明赤褐色
93	15	8	土師質土器	皿	5.2cm	1.0cm	微砂粒・雲母を少量含む	不良	7.5YR5/8明褐色
94	15	8	土師質土器	皿	6.0cm	1.2cm	φ1～3mmの砂粒を多く含む	不良	7.5YR6/6褐色
95	15	8	土師質土器	皿	6.1cm	1.0cm	砂粒・雲母を少量含む	不良	7.5YR6/8褐色
96	15	8	土師質土器	皿	6.8cm	1.0cm	微砂粒を含む	不良	7.5YR5/6明褐色
97	15	8	土師質土器	皿	7.2cm	1.7cm	砂粒少量・雲母を含む	良好	7.5YR6/6褐色
98	15	8	土師質土器	皿	7.5cm	1.8cm	砂粒少量・雲母を含む	良好	7.5YR6/6褐色
99	15	8	施釉陶器	瓶	4.2cm		φ2～3mmの砂粒を含む	良好	外:10R4/4赤褐色、釉:乳白色～褐色
100	15	8	土師質土器	瓶	(3.1cm)		微砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄褐色
101	15	8	土師質土器	瓶	3.6cm		微砂粒	不良	釉:7.5YR8/3浅黄色、胎:5YR3/4暗赤褐色
102	15	8	陶器	瓶			φ2mmの砂粒・長石+雲母	良好	2.5YR4/4にぶい赤褐色～2.5YR4/8赤褐色
103	15	8	施釉陶器	瓶	3.9cm		砂粒少量	不良	5Y8/2灰白色、胎:2.5YR4/6赤褐色
104	15	8	施釉陶器	瓶	3.5cm		砂粒・長石を含む	良好	胎:5YR4/2褐色、外:5YR6/2褐色
105	15	8	土師質土器	瓶			砂粒・雲母	良好	2.5YR6/8褐色
106	15	8	施釉陶器	瓶			砂粒を少量含む	良好	5YR3/4暗赤褐色
107	15	8	施釉陶器	瓶			砂粒多	良好	外:2.5Y8/2灰白色、内:2.5YR5/6明赤褐色
108	15	8	施釉陶器	瓶			砂粒を含む	良好	胎:7.5R4/2灰赤色 釉:10YR8/2灰白色 2.5YR4/3にぶい赤褐色
109	16	9	土製品	型	5.1cm	4.7cm	砂粒を含む	良好	7.5YR6/6褐色
110	16	9	土製品	型		4.9cm	砂粒・雲母・黒色粒	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
111	16	9	土製品	型	15.0cm	3.5cm	砂粒・長石・雲母	やや甘い	2.5Y8/3浅黄色
112	16	9	土製品	型	(10.8)cm	4.6cm	精緻(黒色粒・雲母)	良好	5YR6/6褐色
113	16	9	土製品	型	(8.0)cm	4.1cm	砂粒・雲母・長石	良好	2.5Y7/3浅黄色
114	16	9	土製品	型	8.9cm	4.4cm	黒色粒多量	良好	外面:7.5YR8/3浅黄褐色 内面:7.5YR8/2灰白色
115	16	9	土製品	型			砂粒・雲母・黒色粒	良好	10YR6/3にぶい褐色
116	16	9	土製品	型		4.3cm	微砂粒	良好	10YR4/1褐色～10YR6/2黄褐色
117	16	9	土製品	型	7.6cm	5.0cm	砂粒・雲母・石英・角閃石?含む	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
118	16	9	土製品	型	(6.0)cm		砂粒・長石・雲母・黒色粒	良好	7.5YR6/6褐色
119	16	9	土製品	型	(10.4)cm		砂粒	良好	10YR3/1黒褐色
120	16	9	土製品	型	(9.0)cm	4.1cm	微砂粒	良好	内:5Y5/1灰色、外:5Y5/3灰オリブ色
121	16	9	土製品	型	9.3cm	4.5cm	微砂粒・石英	良好	外面:5YR4/1褐色～5YR6/4にぶい褐色 内面:10YR7/3にぶい黄褐色
122	16	9	土製品	型			砂粒・雲母・黒色粒	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
123	16	9	土製品	型			微砂粒・雲母	良好	7.5YR8/3浅黄褐色
124	16	9	土製品	型			微砂粒・黒色粒	良好	7.5YR7/4にぶい褐色
125	16	9	土製品	型		2.8cm	精緻(雲母・黒色粒)	良好	7.5YR6/3にぶい褐色
126	16	9	土製品	型			砂粒・雲母・長石	やや甘い	10YR8/4浅黄褐色
127	17	9	土製品	ハマ		1.3cm	砂粒少量	良好	5YR5/4にぶい赤褐色
128	17	9	土製品	ハマ			微砂粒・雲母	良好	2.5YR6/6褐色
129	17	9	土製品	ハマ		1.9cm	微砂粒	良好	7.5YR5/6明褐色
130	17	9	土製品	ハマ		1.8cm	砂粒少量	良好	5YR4/4にぶい赤褐色
131	17	9	土製品	ハマ	12.0cm	3.5cm	砂粒・雲母	良好	2.5Y7/3浅黄色
132	17		土製品	土製把手			微砂粒・雲母	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
133	17		土製品	土製把手			精緻(微砂粒)	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
134	17		土製品	土製把手			砂粒	良好	10YR8/3浅黄褐色
135	17		土製品	土製把手			精緻	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
136	17		土製品	土製把手			微砂粒・雲母	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
137	17		土製品	土製把手			微砂粒・雲母	良好	10YR7/4にぶい黄褐色
138	17		土製品	土製把手			微砂粒・石英	良好	10YR7/3にぶい黄褐色
139	17		土製品	土製把手			微砂粒	良好	10YR6/4にぶい黄褐色
140	17		土製品	土製把手			微砂粒	良好	10YR8/4浅黄褐色
141	17	9	土製品	棒ツク			精緻	良好	10YR8/3浅黄褐色
142	17	9	土製品	フイゴ			砂粒・雲母・長石多量	やや甘い	2.5YR5/8赤褐色

写 真 图 版



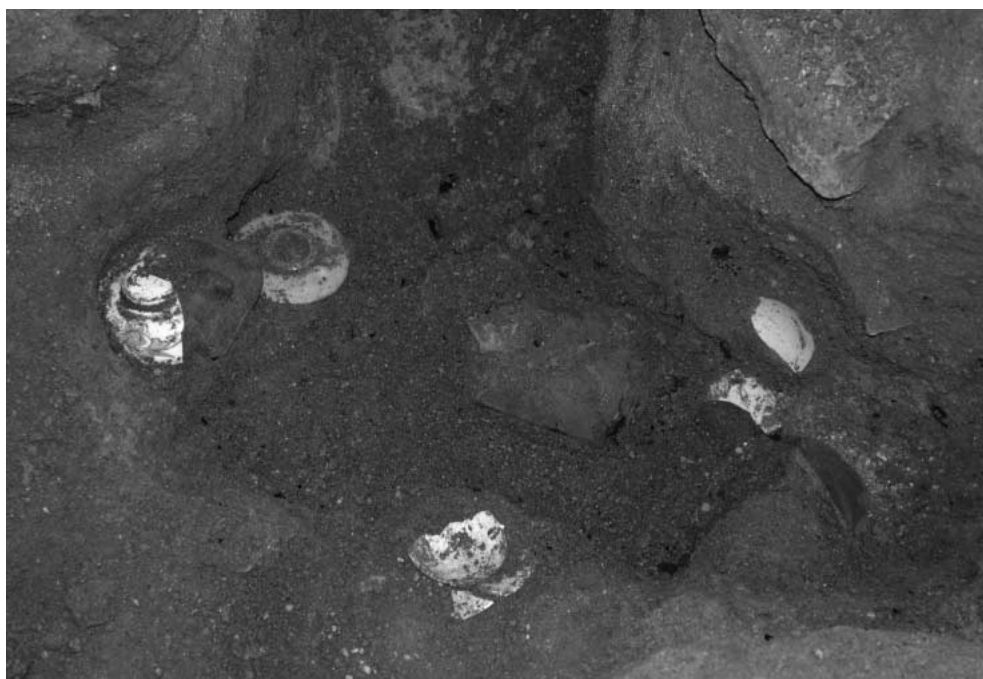
a 調査前状況



b 調査風景



c 調査完了状況



a 遺物出土状況



b 礎石検出状況



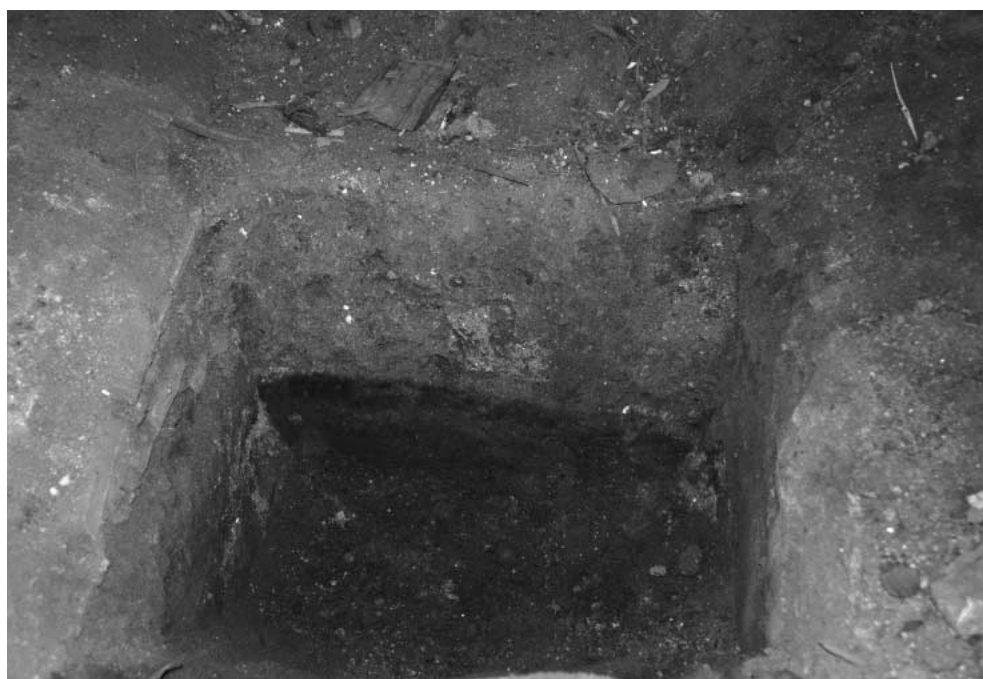
c トレンチ 2 土層断面



a 調査前状況



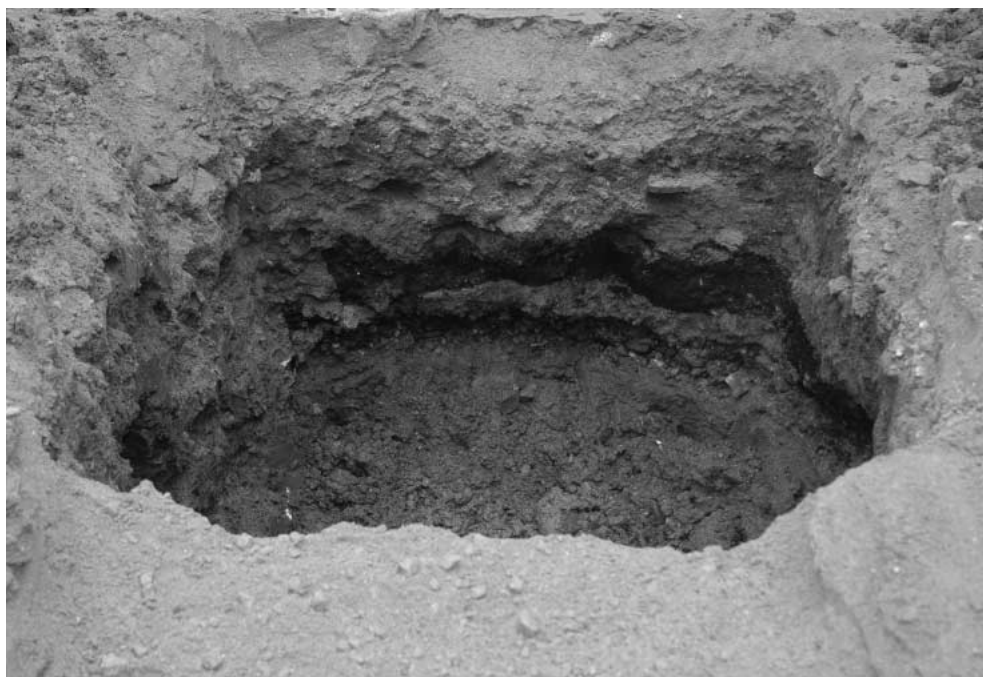
b 排水管検出状況



c 溝状遺構検出状況



a 調査前状況



b 調査完了状況



c 調査風景



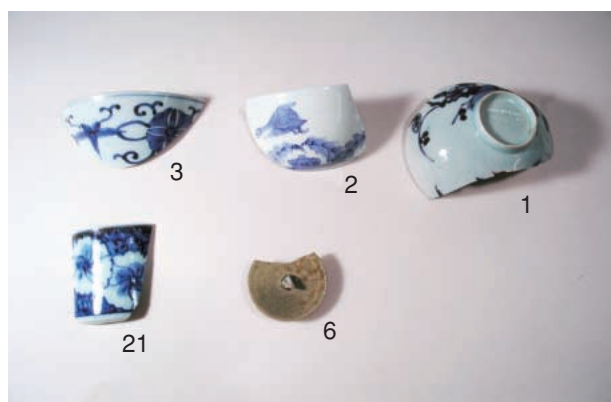
a 尾道遺跡第197次調査
表土除去状況



b 尾道遺跡第197次調査
表土除去状況



c 御調町平試掘調査
調査完了状況





坏A



坏B



坏C



碗C 1



碗C 2



碗C 3



碗A



碗B



碗D



施釉陶器



鉢



瓶



瓶



施釉陶器



皿



型



蓋



碗C



型



型



型



窯道具



窯道具

報告書抄録

ふりがな	おのみちしなしいせき							
書名	尾道市内遺跡							
副書名	尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要							
巻次	平成22年度							
シリーズ名	尾道市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	西井 亨							
編集機関	尾道市教育委員会							
所在地	〒722-8501 広島県尾道市久保一丁目15番1号 TEL (0848) 25-7367							
発行年月日	平成24年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
おのみちしなしいせき 尾道遺跡	おのみちしなしいせき 尾道市久保一丁目字 本久保697-1地先～ 字中久保606-1地先	34205	—	34° 24' 40"	133° 12' 15"	20110118～0121	18.0m ²	範囲確認
						20110125～0126	7.5m ²	共同住宅
						20110309～0311	5.0m ²	範囲確認
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
おのみちしなしいせき 尾道遺跡 I T O 1地点 (第195次調査)	集落跡	中世	性格不明遺構 礎石		土師質土器、陶磁器、銅銭			
要約	尾道遺跡内に所在する浄土寺庫裏客殿保存修理工事に伴い、埋蔵文化財確認調査を行った。中庭部分からは、近世～近代の土器だまりと室町時代に比定される土層から礎石を検出している。室町時代後期～近代の土器が出土している。							

尾道市埋蔵文化財調査報告 第44集

尾道市内遺跡

—尾道遺跡ほか埋蔵文化財調査概要—

平成22年度

発行日 平成24年3月31日

編集・発行 尾道市教育委員会

〒722-8501 広島県尾道市久保一丁目15番1号

TEL (0848) 25-7367

印刷 大東印刷株式会社